

# 雄峯

第54号



TOKYO FUJI UNIVERSITY  
東京富士大学校友会

# 建学の趣旨

国家の前途と人類の将来は青年の優劣によつて決せられる。青年学徒はその使命の重大なるを痛感して常に至誠立つ指導者たるの修練に努めねばならぬ。

我学園は「人道による世界平和」の理想の下に時代を拓かんとする人材を養成せんとするものである。而してその構想は

一、大愛の涵養に努むること

即ち万物育成の大自然愛を養ひ諸民族の解放と和親を図り万邦の協和に貢献すること

一、正義の顕揚を図ること

即ち各々生存の自由と人格の尊厳を重んじ進んで自らの義務を完遂して億兆協力の実を挙げることに

一、文化の向上に資すること

即ち常に人類の幸福を念とし各々その能力を最大限に發揮して更に万象の特性を活かして天地の繁栄を図ること

以上は我学園の設立の趣旨にして我等の日夜遵守すべき原則である。而して我学園の理想たるこの「人道世界の建設」は我民族の理想に一致し、更に人類の理想に合致するものと思惟せらる。もとよりその実現は人間性の一変せざる限り永遠の努力を必要とするものではあるが、この事は人間社会の無限の発展を意味し又我学園の理想の高遠なる所以を示すものである。

我々は困難ではあるが光榮あるこの大道を全人類と共に進み斯くして人類に光明を与へ常に希望ある世紀を拓き以て負荷の大任を全ふせんことを誓ふものである。以上

昭和二十二年四月

# 東京富士大学校歌

高田勇道／作詞・作曲

一、春爛漫の夢さめて

匂える花の移ろえば  
世は盛衰を嘆けども  
至誠の矜厳かに

文化の流れ拓かんと

破壊の嵐吹きさすさぶ  
曠野を進む若人の  
燃ゆる眸に希望あり

二、興亡くらき人類の

歴史の波瀾たけれども  
見よ東雲の黎明に  
世紀の鐘の音高く  
拳りて謳う大き世を

四海の人に語らんと  
時代に起てる若人の  
守る使命に力あり

三、ああ海原の空広く

精神は清き民族の  
明日の道にそなえんと  
この学舎に集いして  
久遠にかおる建設の  
理想を高く仰ぎつつ  
すぐりて結ぶ若人の  
固き誓いに光あり

固き誓いに光あり

## 雄峰 第54号 CONTENTS

● **あいさつ**  
雄峯第五十四号発行に寄せて——名誉会長 二上映子 3  
卒業生に贈る会長の言葉——理事 本間玲次 4

● **計報**  
故・二上貞夫先生を偲んで——校友会会長 本間玲次 6  
二上貞夫先生と少林寺拳法——第八代校友会会長 若狭茂雄 6  
四年制大学の二期生として——顧問 石井末之進 7  
先生からの年賀状——顧問 関 實 7  
ピアノ・卓球・言葉——顧問 佐藤雄一郎 8  
感謝の通信教育部——顧問 鶴木由美 9  
ある日—先生を囲んで——藤井 直 9  
体育実技の一輪車——

● **特集**  
校友が学んだ学長を語る⑤  
酒枝義旗先生との出会い「第4代学長 酒枝義旗先生(その3)」——東京富士大学名誉教授 早坂忠博 10

● **活躍する校友**  
南画と私——諸岡佳子 13  
ヒマラヤとチベット紀行——校友会顧問 弁護士 樋口光善 15  
本学に入学の動機と暮らし——関山賢司 19  
米国の番号制度に見る日本の個人番号制度の安全性——青野貴礼 20

● **支部訪問記**  
岩手県支部活動の回顧を兼ねて——副会長 関山賢司 21  
福島支部を訪問して——副会長 森川 昇 22  
〔文芸〕「春の風」関實／「幹の瘤」大原芳村／「川柳」藤井 直 22

● **東京富士大学に学ぶ**  
我が道——夏 婕梅／向上一心——滝澤光太 23  
東京富士大学大学院に学ぶ——櫻井雅輝 24  
日本での経験糧に——沙 露云／実になた大学院生活——櫻井雅輝 24

● **TOPICS**  
校友会 第66回定期総会 講演会報告——北爪 登 25  
「落語」一席 講師 入船亭 扇蔵師匠——事務局 長 25  
校友会 研究会報告——

● **東京富士大学研究会報告**  
支会報告 少林寺拳法部雄峯会——青野貴礼 25  
支会報告 雄峯マネジメント研究会——本間玲次 26  
支会報告 会計人会の活動報告——森川 昇 27  
若狭茂雄 27

● **計報**  
平成27年度学園行事——30  
平成27年度校友会事業計画／平成27年度校友会行事録——30  
平成26年度校友会決算報告書／平成27年度校友会収支予算書——31  
東京富士大学校友会会則——32  
平成27年度校友会事務組織分担表——33

● **編集後記**  
35

## 雄峯第五十四号発行に寄せて

平成二十七年 東京富士大学卒業の皆様・大学院修士課程修了されました皆様おめでとうございます。

本学の同窓生は創立から平成二十七年三月までで約四万三千人中でも公認会計士・税理士の国家資格を取得された方は約五百人、行政勤務の方・個人で事務所を営営されている方又、都内はもとより地方に行きましても卒業生の出世されている方に出会います。正に「春秋に富む」(年若くして前途に望み多し)の如く立派に実行されており誇りに思います。

二代目理事長 二上仁三郎先生は昭和二十六年六月から平成八年三月まで任務されました。

私学ですから経営者は最初全て自費で土地を購入し、校舎を建築し始めて短期大学を軌道にのせての経営です。

初代学長に英語の大家 勝俣銓吉先生にお願いし昭和二十八年一月経済科に第二部を設置・昭和四十三年三月 経済科通信教育部を



設置しました。二代学長に立教大学から小松武治先生・早稲田大学から第三代学長中村佐一先生・第四代学長 酒枝義旗先生・東京教育大学(現筑波大学)から第五代学長 稲田正次先生・第六代学長 宮本富士雄先生・第七代学長 石原義盛先生(国

会図書館調査局)・第八代学長 早坂忠博先生・他に古賀鶴松先生・西野入徳先生・立教大学から縣康先生・東京教育大学(現筑波大学)から館山清先生・文部省主任教科書調査官 村尾次郎先生・後に早稲田大学総長の時子山常三郎先生など有名な先生方に教鞭を執っていたいただきました。

理事長は登山部の学生さんと富士登山へ同行したり、卓球を学生さんと楽しんだり、学生さんとは親密でした。

全日本短期大学協会の役員の傍ら 地域においても活発に参加し、就職活動に力を入れられ 警視庁 戸塚警察署や商工会議所、地域の経営協議会の役員等 引き受け、本学の知名度を高められ卒業生の方が時折り本学に尋ねて下さると、大変嬉しく歓迎致しておりました。

卒業生の皆様は校友会の会員ですから總會その他の会を催される時は是非参加してください。

教職員一同・お待ち申し上げております。

学長(平成十七年四月から) 岡村一成先生は昭和四十二年四月より・富士短期大学からの平成二十八年三月までの四十九年の永きに亘り東京富士大学・大学院に貢献され、内外においても學術の発展に業績を残されました。心より感謝申し上げます。

平成二十八年二月の理事会で 名誉教授の称号が決定されました。

平成二十八年三月

東京富士大学 校友会 名誉会長 二上 映子  
学校法人 東京富士大学 理事長

# 卒業生に贈る会長の言葉

東京富士大学校友会会長 本間 羚次



## はじめに

東京富士大学経営学部卒業の皆様、ならびに大学院修士課程を修了された皆様おめでとうございます。

また同時に、校友会に入会されましたことを心から歓迎するとともに、新しい仲間ができましたことを、多くの校友会々員とともに喜びを感じております。

## 今年度の出来事

今年も嬉しい知らせがあり、まず第一には、昨年続き十月五日、二〇一五年のノーベル生理学・医学賞を大村智・北里大学特別荣誉教授に贈ると発表、翌六日には、ノーベル物理学賞に、梶田隆章・東京大学宇宙研究所長に贈ると発表、物理学賞の日本人の受賞は二年連続となりました。二人の授賞式は十二

月十日、ストックホルムで行われました。大村智教授は、静岡県のゴルフ場近くで採取した土の中の微生物から、途上国を中心に現在二億人以上が使う抗寄生虫薬「イベルメクチン」のもととなる物質を発見。多くの人を失明などから救いました。梶田隆章教授は、岐阜県飛騨市の巨大観測装置「スーパーカミオカンデ」を使った研究で、素粒子ニュートリノに質量があることを発見。物理学の常識を覆し、宇宙論などに大きな影響を与えました。

つぎに、なお今も話題が続き、ラグビー人気のもととなったのが、ワールドカップ（W杯）イングランド大会での三勝です。グループリーグ初戦では、過去優勝二回の強豪、南アフリカと対戦、終了間際にトライが決まり34対32で逆転勝ち。国際統括団体ワールドラグビーの「W杯の最高の瞬間」賞にも選ばれました。二回戦のスコットランド戦には敗れたものの、続くサモアと米国には連勝。八強入りは果たせなかったが、過去七大会で一勝のみだけだったために、今大会の活躍は光りました。特に大会58得点を挙げた五郎丸

選手がキック時に行う、拝むようなポーズは大会終了後も長いこと話題となり、ラグビー人気を高めました。また今年も、三月十四日に北陸新幹線の長野・金沢間、二二八キロが開業しました。東京・金沢間は、以前より約一時間二十分短縮され、最速二時間二十八分となりました。開業により北陸各地に観光客が押し寄せるようになりました。以上、嬉しい出来事を記しましたが、今年も悲しい出来事も多くありました。

まず、自然災害では台風十七号などによる影響で、九月九日～十一日の三日間にわたり、関東、北陸で発生した豪雨により、茨城、栃木、宮城の三県で八人が死亡するなど、大きな被害を出しました。中でも、茨城県常総市では鬼怒川堤防の決壊により、四十平方キロメートルにわたって浸水しました。市内で浸水したのは、市が想定した浸水域とほぼ重なっていたが、水を想定した訓練は行っていないかったとのことでした。茨城県と常総市の連絡不足もあり、安否不明者の無事を茨城県が市に伝えなかったことや、安否不明者の氏名を市は非公開とし、行

政機関によって不明者数がまちまちだったことも判明、このようなことが被害の拡大に繋がったとも言われています。

また、横浜市都筑区の大規模マンションが傾いているのが見つかかり、杭工事を下請けした「旭化成建材」で杭の打込み不正や工事データの流用などがあったことが、十月十四日、明らかになりました。この工事は、工事を施工した会社のみならず、元請会社、二次元請会社、関係した全三社が大きな責任と非難を受けることとなりました。これらの出来事は他にも大きな問題があったのだと思います。たしかに企業は利益を得ることに務めることは当然のことですが、法令や規則に反した行為は許されるのでしょうか。儲け一辺倒の「金、金、金」という商売ではなく、山田方谷の『理財論』にある「義が發揮されるなら、利は後からついてくる」という言葉や、孔子の「信なくんば立たず」という言葉も、鮮明なまま現代に生き続けているように、経営の任にあたるものの責務であると思われれます。

## 未来へむけて贈る言葉

さて、このような年に卒業される皆様は今後どのような道に進まれるのでしょうか。さまざまな道があると思いますが、いずれにしても新しい未知の世界に入られるわけですから、これから実社会において仕事をしていくにあたり心掛けていただきたいことは、まず自分自身をしっかり見つめ、自己を確立して、人として恥じない自分を作れば仕事は必ず身に付き、社会に貢献出来ることとでしょう。私から三つほど、皆様にお伝えしたい事を記します。

一つ目は、皆様が今日ここに居るのは、自分一人の力ではないということです。

生を受けてから今日まで、いかに多くの人たちのかかわりがあったのでしょうか。父母、友達、先輩、学校の先生など、数えたらきりがありません。もともと考えてみると、着ている衣服、食べている食物、住んでいる家といった「衣・食・住」においても、多くの人たちや自然のかかわりがあったり初めて成り立つものがあり、自分で全て出来ると思つたら大間違いであることに気付かれるのではないのでしょうか。多くのかかわり合いの中で生かされているということを理解し、感謝の念をもってほしいと思います。

二つ目として、今後それぞれが

色々な目標を設定し、それに向かって努力されていかれると思います。

以前読んだ雑誌に、目標設定の仕方には色々な考え方があるんだなと思わされた記事がありました。

今日メジャーリーグで活躍しているイチロー選手にまつわる話です。イチロー選手が二十代でオリックスの選手時代に、バッティング投手を勉強していた奥村氏の話がのっています。「目標を設定するにあたって、イチロー選手は二十代にして既に明確な考えを持っていた。『奥村さん、目標は高く持ったらダメなんですよ』、初めてこう言われた時、私は正直戸惑った。なぜなら、一般的には『目標は高く持つ』と言われていたからだ。彼はこう続けた。『目標が高すぎて手に届かなかつたらどうするんですか。そこで諦めてしまおうでしょう。それは目標としておかしんじゃないですか。まずは自分がクリアできるところに目標を設定して、それをクリアできたら次の目標を立てればいい。目標をクリアする度に達成感を味わうことで、さらにプラスに物事を考えられるようになっていくんですよ。追い込まれるばかりで何が楽しいんですか』……

たしかに考え方は多種多様とは思いますが、このような考えで目標を設定するのも良い方法かなと思

ました。皆様も一つの例として頭に入れておかれてもよいと思います。

三つ目は、「脚下照顧」という言葉です。

日々の暮らしの足下をこそ照らし、顧みるべきだという戒めの言葉で、禅寺の玄関などでよく見られます。もつと簡単に云うと、まず玄関で履物を揃えましょう。こんな簡単な言葉ですけど、ちよつと考えてみますと、過去の事をいつまでもくよくよ考え、前に進めない。また、これから先の事を憂いて心配ばかりしていたりしませんか。「目の前の事ばかりに気を取られず、前向きに生きなさい」「先を見据えて高い目標を掲げて生きましょう」……何度そんな言葉を聞かされたでしょうか。

たしかにどちらも大切なことではあります。前ばかり見すぎて足下が疎かになっていませんか。今立っている場所さえわからなくなっている場所を過ごして、ちよつと疲れてしまつたら、ふと立ち止まり自分の足下を見てみましょう。

今の仕事、今の人間関係等々、そんなにつまらないものなのでしょう。今この時点で満足せず、先の先にいいことがあると思ひ違ひしていいのでしょうか。目の前や足下をちゃんと見ないで遠くばかり探し回っても無駄で、日常の中や身近な足下に

こそ真意があると教えています。

皆さんもこれから壁につき当たることが出て来ると思いますが、そんな時は思い出しただけで何とかの役に立つことがあると思います。

以上三点、『感謝の心』、『目標の設定』、『脚下照顧』を皆様にご紹介させていただきます。

## 校友会活動について

最後になりますが、本年度校友会々員となられた皆様には、「校友会活動の目的と事業」を記載しますので、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

### 第3条(目的)

本会は、会員相互の資質の向上と親睦を図り、あわせて母校の発展に寄与することを目的とする。

### 第4条(事業)

本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。1. 各種研究会及び親睦会の開催 2. 会報の作成及び配布等

校友会の一員として、校友会活動に是非ご参加ください。

今年の校友会総会・懇親会を、平成二十八年六月十八日(土)に予定しております。

懇親会には学長先生をはじめ、皆様がお世話になった先生方にもご参加をお願いしてあります。仲間を誘つて是非ご参加ください。

ご卒業、まことに改めてとうござい

(昭和41年 経済科二部)

## 故・二上貞夫先生を偲んで

本校前理事長であり、校友会名誉会長であられた、二上貞夫先生が昨年四月二日永眠されました。謹んで哀悼の意を表します。

二上貞夫先生は、平成八年四月 学校法人 富士短期大学 第三代理事長に就任されました。

以降、皆さんもよくご承知の「本校建学の趣旨」を念頭におかれ、学園の運営・改革に取り組みてきました。その一つ大きな事

業として、四年制大学にすること、その上大学院を設置し、より高度の専門性を有する職業に必要な能力を持つ有為の人材育成を旨とし、社会の発展に寄与することを使命とする目標をもって、その設置に努力されました。

また卓球部を支援され、日本だけでなく世界へ、富士短期大学の知名度を高め、学校の発展に大きく寄与されました。

### 二上貞夫先生と少林寺拳法

校友会会長 本間 羚次

私は校友会活動以前に、少林寺拳法を通じて五〇年間お付き合いさせていただきました。

我々少林寺拳法部は、昭和三九年五月、二上貞夫先生ご理解のもと活動が始まりました。当時、少林寺拳法は関東では殆んど認知されていなかった時期で、創設に当たり二上先生はご自身でも体験すべく、奥様の映子先生と共に入部され、一緒に練習に励み理解を深められたとのこ

とです。

私は昭和四〇年五月に入部、昭和四二年に雄峯会を結成しました。翌昭和四三年には、二上貞夫先生快諾のもと道院を創設し「山ノ手道院」と命名していただき、道院長・松田欣一郎先生、私、本間が副道院長、秋元耕一を道場長として、発足から道院閉鎖までの四〇年間、一度も責任役員を変更することなく続けてきました。

雄峯会の年間事業をはじめ、事

あるごとに二上先生に相談し、出席をいただきました。たしか、平成一六年一〇月二三日創部四〇周年の式典を開催した際に頂戴した挨拶の中で、「少林寺拳法開祖が、中国の崇山 少林寺に行きたいが、中国と国交がないために行けない。そこで東京の責任者で対外接渉をしている内山先生に何とかならないか」との話から、二上貞夫先生が中国と卓球を通じて接点があるということに頼まれ、橋渡しをし、宗道臣師家の中国訪問が実現したという話を伺い、驚いたことを詳細に思い出されます。

### 四年制大学の一期生として

第八代校友会会長 若狭 茂雄

二上貞夫理事長の計報は、大学職員からの連絡で知りました。たしかに卒業式の時、とてもつらい姿を拝見しましたが、突然このような計報に接することとなり、一時どうすれば良いのか頭が真っ白になり、しばらく事務所で佇んでおりました。

学園創立者の高田勇道先生が示す「建学の趣旨」にもとづき、本学園の発展と充実に献身する宣誓のもと、平成八年四月一日に本学第三代目の理事長に就任されました。就任後は今の二上講堂(当時は高

我々雄峯会では五年毎に周年行事を行い、二上貞夫先生にはほとんどの行事に出席頂いておりましたが、五〇周年記念祝賀会の際、一週間勘違いされ、出席が叶わなかった事が先生も私たち雄峯会々員にとっても、非常に残念でいまでも心残りです。

少林寺拳法を通じ、昭和四〇(一九六五)年五月より、平成二七(二〇一五)年四月までの五〇年間、常に教えを仰ぎながら、二上貞夫先生とお付き合いできましたことを深く感謝するとともに、安らかなご永眠を心よりお祈り申し上げます。(昭和41年 経済科二部)

田講堂)を竣工され、二上仁三郎先生が死去された後、悲しみのなか二人の偉大な意志を引き継ぎ、高田先生、父である仁三郎先生の功績、背中を見て歩まれた二上先生の道のりは、語りつくされないほどであったとお察しします。

そして平成14年4月に東京富士大学4年制大学を開校されました。私は仲間と共に3年生に編入し、2年間若い学生と共に机を並べ若いエネルギーをたくさん頂戴しました。理事長からは「学生生活はどうで

すか」と、からかわれながらも笑顔で声をかけて頂いたこともありました。本当に楽しい2年間を過ごさせて頂き、仲間たち皆が卒業できたことに喜んで頂いた理事長の笑顔は今も忘れられません。

卒業後に私は校友会の平成17年6月の総会において、第七代松本守会長からバトンを引継ぎ第八代会長となりました。理事長とお逢いする機会がより多くなり、色々な悩み相談等の会話ができたこと、その中で上に立つ立場になった時は、皆の声を聞きながら、皆をまとめていくコツ等も教えて頂きました。また、『雄峯第50号記念号』発行の際には、多大なご協力を惜しみなく頂戴し、8年間の校友会会長を無事乗り越えることができました。この全ての

## 先生からの年賀状

東京富士大学理事長・校友会名誉会長二上貞夫先生の訃報に接し謹んで哀悼の意を捧げます。

名誉会長さんには校友会の仕事を通じて在任中種々ご支援ご協力をいただき、大変お世話になりました。校友会の仕事を辞してから15年余お逢いする機会もありませんでしたが、この間名誉会長さんの活躍する姿は毎年毛筆でしたためた年賀

機会、経験が自分自身を大きく育てる「宝」として、今後の自分自身の糧となるものを頂いたことに感謝申し上げます。

先生とは同郷、富山県出身のことで私もいろいろな点で甘えていた気がします。共に雪国で生まれ、立山連峰の雄姿を見ながら、山の幸、富山湾でとれる海の幸、素晴らしい清水で育ててもらった故郷を思い浮かべながら、天国にてきつと故郷と学園の自慢話で花が咲いていることと存じます。

本当に校友会会長の8年間において多大な助言と暖かい心配りを頂いたことに感謝申し上げます。本当に長い間ありがとうございました。

(昭和41年 経済科二部)  
(平成16年 経営学部夜間主)

## 顧問 石井末之進

状をいただき、その年賀状を通してバイタリティーで元気で活躍する面影を思い浮かべておりました。

私が校友会に携わったのは、昭和49年の春に雄峯会（現校友会）の総会が開催され初めて出席し、その総会において青木伸会長から佐治敬夫に引き継がれ新体制のもと新たな出発する年でもありました。佐治新会長から事務局長を手伝っていた

だきたいとの要請があり、大学の高橋新さん、関實さん（現顧問）とでその任にあたることになりました。

爾来佐治敬夫会長、武井牧男会長、井上和子会長のもと22年間に亘り携わることになりました。

校友会の運営は、校友の協力はもとより大学との連携を保ち、お互いに連絡をとり協力し合い進めて行くことが最も大切なことです。

幸いにも校友会の仕事を一緒に担うことになった高橋さんは卒業後大学の職員として校友会の仕事にも携わっており、校友会のことは良く周知し精通していましたので容易に理解することができました。

校友会の事務局長は名誉会長さんの計らいで学生課内に置いていたが、学生課長さんが本務の仕事の

## ピアノ・卓球・言葉

## 顧問 関 實

先生と出会ってから50年という長いようではあるが、この稿を依頼されたとき思わず学生の頃や校友会の会務を行っていた頃のことを思い出した。その日以来私の脳裏には絶えず、誠実でこだわりなく親しみやすい笑顔の先生が浮かび、そして胸中に蓄積した長年の思いが湧きかえり言葉が溢れて止まらなかつた。

入学式のとき、白衣を着た二上先

傍ら校友会の仕事を担当することになりました。名誉会長さんからもお互いに良く相談し協力し合い任にあたっていただきたいとの激励の言葉をいただき、校友会の発展のため頑張ろうと意を強くしたものです。

校友会の仕事は、自身の仕事上何時も夜になってしまいます。来校の際には名誉会長さんに挨拶に行くとき、常に労いの言葉をかけていただき、大学のこと、校友会のことの話を成ると尽きることはありませんでした。

今日の東京富士大学を築き上げられ、校友会の体制づくりにご尽力ご協力いただいた名誉会長のご遺徳を偲び、ご冥福をお祈りいたします。

(昭和35年 経済科二部)

生が校歌のピアノ伴奏をされた。大変不謹慎な表現ではあるが歌声は聞こえずピアノが奏でるメロデーのみで、軍歌調と歌謡調を合わせた曲のように聞こえたのが率直な感じであった。後の式典では何時も先生が伴奏をされていた。校歌は在学中覚えられなかつたが校友会の役員になつてから覚えることができた。

2年生のとき、学生委員長から任

されて学祭ではなく日帰りバス旅行を企画実行し、先生に見送られて、一路三浦半島の城ヶ島に行った。先代理事長の二上仁三郎先生も行かれ大層喜ばれた。

また、卓球のことであるが、先生は国体の富山県代表選手を長年務められ、近年は世界卓球選手権大会の審判長を務められるなど、日本よりも世界の人であられたのに、この稿で大変失礼ながらお許しを得て記すと、こうである。

私は高校時代国体にはいけなかったが埼玉県体には毎年出場し、そこそこ活躍したこともあって卓球には関心をもっていたことから、同じ2年生のとき、先生にご相談したところ快く賛同されお力添えを頂き卓球大会を開いた。参加したのは、一部、二部、寮生（他の大学生も入寮していた）の3チームで、学長の代わり先生がいさつや賞品を授与された。その時「試合ではどんな逆境に立たされても力強く、正々堂々と戦い、自分の力で勝ち抜くこと……」とお言葉を述べられた。後になって、そのお言葉から「正々堂々と正道を歩むこと、自分の力で生き抜くこと等々」を、先生は教えて下さったことに気づいた。

校友会の会務で大学に行くと毎回どんなに忙しいときでも時には直

立不動でお会いして下さり無礼な質問の数々に丁寧にお答えになられ、先生の心から出た深い経験とわかりやすい数々のお言葉は、胸を突き上げる熱いものがあつた。そして当時の校友会役員に述べられた数多の先生のお言葉をありがたく思い校友会の会務をあれほどまでに熱中できたことに感謝の気持ちでいっぱいである。それは先生の熱い言葉が私の心の中で今なお生き続けており、確固たる目標に向かって汗流すことを教えて下さった先生との出会いに感謝のほかない。このように私は幸運にも先生から多くのものを学ぶ機会に恵まれた。

また、大学の評議員当時、週刊誌の記事になった学長の件では校友会の武井会長と私とで調停役を命じられて円満解決したこと、花巻の富士大学の件では東京の役員全員が辞任され私だけが両大学の評議員だったこと、校友会50周年記念事業では先生に大変お世話になったこと、4年制大学創設準備の川口の学校用地では協力させていただいたこと、先生には大変ご苦労されたことなどが色々と思ひ浮かぶ。先生は「書」でも有名であるが、私が評議員を退任したときご丁寧に自筆の「書」の色紙と会津塗りの「硯箱」を贈って下さりありがたくいだ

いた。その色紙の言葉を大事にしなから、今その「書」の前でこの稿を書いた。

「ホームカミングデー Welcome Home!」が開かれる案内状に接したとき、先生にお会いできるものと思いで大学に行ったが残念ながらお会いできなかった。現理事長の二上映子先生にお会いし親しくお話しする機会を得た折、「貞夫先生は入院中ではあるが退院間近である」と伺い一安心したことを憶えている。

先生は何回も入院してはその度に復活してお元気なお姿を見せて下さったので先生が早く逝くとは思っていなかった。

## 感謝の通信教育部

私は地許、白河商業学校五年次を出ただけだった。戦争中で勤労奉仕や通年動員に狩り出され教室で先生の講義をお聴きするという時間はいくらもなくて来た。上の高等学校なり大学には貧しい家であったから望むべくもなかった。それで旧中卒資格のまま役所勤めをしたり、働かぬ父に代わって大勢の家族の生活を支え弟妹の教育のために広告マッチや割箸をもつての遠近を問わぬ行商人に身を落としたりした。大学なんかはもう全く諦めてい

先生は唄の作詞と曲の補作をされ日本コロンの歌手が唄われた。その曲のテープを頂いたこともあり、一面にぎやかなことも好きなお人柄であられたので多くの人が弔問に来て下さったこと、また花巻の富士大学前理事長の佐藤雄一郎先生、我が校友会若手支部役員で若手在任の富士大学職員木村裕子さんも弔問されたことを喜んでくださったと思う。

二上先生を失った今、母校が新たな、確固たる目標に向かって歩み出されていることに触発されています。

(昭和36年 経済科二部)

## 顧問 佐藤雄一郎

た。実はある大学の通信教育をやったが、四十日のスクーリングを消化できず退けてもいた。それが富士短期大学は土曜・日曜のスクーリングをやるといふ。私はその情報を知るのが遅く二年目、私の四十四歳のとき入学願書を提出し面接日を迎えて上京し、現在学長をなさっておられる岡村先生の前に座った。

佐藤さんは高校卒ではないのですね。このままでは入試を受ける資格はありませんね。ではどうすればよいのでしょうか。大学入学資格検定



試験を受けなければなりません。い

わゆる大検、私のはじめて聞く言葉  
だった。私は一寸、自信ありません  
ね。いやあなたは税理士だけでなく  
不動産鑑定士の資格も持っておられ  
ます。大丈夫ですよ、とおっしゃら  
れ私は広い教場で只一人その問題に  
向き合った。そして入学を許された。

毎週土曜日は朝五時の電車に乗  
り教室に入るのは九時始業なのにい  
つも十五分遅刻した。で大学はこう  
いう講義が聴けるのだと、愉しくて  
嬉しくて毎週この二日間は心躍るよ  
うだった。そして土曜の夜は横浜や  
大阪や九州からの遠方から来られた  
学友たちといっぱいやるといふのも

## ある日―先生を囲んで

―今年の紅葉はね―と呟かれた  
と思つたら、もう次の話に移ってい  
ます。偶然お会いした時など、すぐ  
に話題を提供します。校庭で、校  
舎の廊下、イヴェント場でも、たち  
まち人の輪が広がります。何故か立  
話が多かったのです。勿論、その中  
心は二上貞夫先生です。話題豊富で  
一つのこと収まりません。学園の  
こと、校友会のことも、時のニュー  
スには敏感でした。様々なメッセー  
ジが伝わります。公の場での言葉も  
ユニークさで、際立っていました。が、

代え難い喜びだった。

しかも富士短大にきたのが縁で  
花巻の富士大学にもかかわりを持つ  
ようになり思いもかけない展開にも  
なつた。

ふりかえれば私に新しい天地を展  
いてくださったのは、二上貞夫名誉  
会長が遠方において多忙な者も向学  
心さえあれば大学に学べるという、  
土・日曜スクーリングをやるとうと画  
期的な決断をなさつたことに全てが  
由来する。

私の貧しい人生にとってその学恩  
は極めてはかり知れないと感謝の思  
いの消えるときはないのである。

(昭和52年 通信教育部)

鶴木由美

この立話には叶いません。先生が大  
きな山を築き、さらに次の山に向  
かつて多忙な日々であることも知っ  
ています。それでも、卒業生にとつ  
ては、久し振りにお会いした先生と  
この瞬間が大切なのです。みんな  
動こうとしませんでした。

ある日の光景が心に刻まれていま  
す。卒業生の門出を祝う日、その会  
場へ向かうエスカレーター上で、こ  
ちら側に突然手を振られたのが教  
え子に囲まれた先生でした。いつも  
のように自然に。見上げると一瞬、

魔法の絨毯で楽しそうに飛んでいる  
ように見えたものでした。

―もしかしたら―それが、先生ら  
しい旅立ちの合図だったのでしょ  
うか……。

それからあの日の光景に会うこと  
はありません。  
校庭の黄色い葉も舞っています。

## 体育実技の一輪車

二上貞夫先生からは、体育実技I  
単位、優をいただいた。

大世学院時代には主要校舎で  
あつたというアーチ型側壁をくぐる  
と、緑色をした土間があつて、右手  
奥に先生が机を前にして着席して  
おられた。脇に教務課の若者が控え  
ていた。「はい、次」と呼ばれ、先  
生の目の前に引いてある白線から、  
一輪車に乗って、5メートル前進し、  
今度は後ろ向きで5メートル返って  
くるといふ課題である。落下は減点  
になるので、練習しておくようにと  
予め指示されていた。身体の平衡維  
持機能の鍛錬と、不均衡修正の意思  
と、その努力の試みを評価するとい  
うことであつた。私は、前進は何と  
か到達し、後退は直線にはなく、  
かなり緩やかに、いまにも落下しそ  
うになりながら、ようやく帰着した。

私の直前にその一輪車に乗ったT

もう、人の輪ができることはありません  
でした。

あの日、校歌に送られた先生へ届  
くように、感謝を込めてそつとひと  
節口ずさみました。

「曠野を進む若人たち」をどうか  
見守りください。  
(昭和30年 経済科)

藤井直

君などは、あつというまに直線的に  
前進し、直線的に後退して了つた。  
車から降りるときも、「何だ、こん  
なもの」というばかりに、一輪車を  
投げ出すように、激しい勢いで離れ  
た。私はその時の先生の眼に収まら  
ない雰囲気があつたのを気にして、  
車の上に一拍留まって、姿勢を平衡  
に戻してから降りた。「よし！敢闘  
賞」という声がすぐ左後方からした。  
先生の機嫌の良い声であつた。

一瞬の気合が支配したのをいまで  
も明瞭に意識することができる。そ  
して、実技の完成度からすると、十  
分ではないことを明らかにしたうえ  
で、あえて優を配当した先生の厳し  
さとやさしさを身体の深いところで  
受け止めることができた。いまでも  
有難く思っている。

ご冥福をお祈りいたします。

(昭和42年 経済科)

## 酒枝義旗先生との出会い

東京富士大学名誉教授 早坂忠博

## 「第4代学長 酒枝義旗先生」〔その3〕

## 酒・枝・義・旗

唐の杜牧の詩に「江南春」というのがある。

千里鶯鳴いて緑紅に映す

水村山郭酒旗の風

南朝四百八十寺

多少の楼台煙雨の中

すがすがしい感じの詩である。酒枝義旗よしかぎという名前が気にかかりだすと、自然にこの詩を思い出したのだ。酒・旗という字が共通して立ってられる旗のことだが、そうだとしてもこの詩の明るい、すがすがしい感じはうすらぐことがない。そもそも酒枝義旗という名前を



第四代学長 酒枝義旗先生

すがすがしくカッコイイと思つたのであり、それが杜牧の詩に結びついたというわけである。

酒枝、なんといかした姓であろうか。神様に上げる酒と関係ありそうな気がするが、そんなことはどうでもよい。誰がなんと言おうと酒ノ枝にすがすがしさを感ずるのである。そして義の旗とは又なんと素敵なさつそうとした名前なのだろうか。正義の旗というよりは、やはり義ノ旗をひるがえして馬に乗つた酒枝先生が今にもさつそうと現れ出そうである。かくて 酒枝義旗先生は、すがすがしく、さつそうとした先生でなければならぬ。ところが先生は兵隊に入ったばかりの時、ダブダブの軍服を着て、飛ばないように帽子を手で押さえて走るそのかっこうの珍妙さで有名になったのださうである。その真剣さ、懸命さ、誠実な態度、そしてスマートとは言えない、いや、ややぎこちない先生の運動形態……。先生が書いた文章でそのはなしを読ませていただいた時に、うれしくてそしておかしくて一人でク

クス笑ってしまったのだ。

しかし、とにかく、先生はやはりさつそうとした方である。神に対する敬虔さ（それについて語る資格がないのだが）と学問に対する情熱と義のあるところ火をも踏むといった人間の事象に対する若々しい感覚と……、一方でお化けの話を本當に怖がったり、鉄道唱歌六十六番を全部歌えることが大の自慢だったりすることも含めて、先生はほんとうの意味でさつそうとした方である。学生時代にキリスト教青年会（？）で酒枝先生にたいへんお世話になったという哲学の教授が、「（酒枝先生は）ある意味で最後の人なのではないかと思う」と言われた。そのことを本當だと思つた。どういふ意味で最後の人だといふのかよく分かりもしないのに、本當にさうだと思つたのである。こういう先生はますます少なくなってしまうのだからという感じが強く持つたのだ。

こういう人間といったが、こういう人間がどういふ人間なのかは

はつきりしない。ただ漠然と次のようなことを思う。一つは先生の学問に関することである。……かつて青柳（？）という支那学の先生がいた。この先生の講演を聞いたある帝国大学の教授が、青柳先生の支那についての豊かな学識、深い現実理解、確かな見通し、そして説き来り説き去るその弁舌の迫力、魅力に打たれ、「いやあ、早稲田という大学は大きい、大きくて広い」と感嘆の声を上げた。……「この話を聞いて、私はこの大学に改めて心からなる愛と誇りを覚えたのだ」と、酒枝先生がある文章の中でそう書かれている。

この青柳先生の弟子に当たる安藤彦太郎教授の講義に3回出席した。安藤教授は最初の授業で、中国についての学問はまだ若くて専門分化するに到っていない、自分の講義もアメリカにおけるジャパノロジーなどと同じように中国事情といった感じのものになるだろう……と前置きなされたのだが、魯迅などの文学にも触れ、革命といった社会の動きなども視野に入れて、総合的に経済の流れを理解していこうというこの講義、きつと面白いだろうと思つた記憶がある。この安藤教授の話と酒枝先生の文章で知つた青柳先生が自分の頭の中で結びつき、それが酒枝先生の学問のありかたを考へる一つ

のヒントとなる。酒枝先生は（支那浪人といった風の）青柳先生の人となり支那事情といった感じを残すその知識を否定されなかった。学問の分化、専門化は避けられないことなのかもしれない。効率、有用性と結びついて学問の技術化、細分化は大きな流れになってきている。しかしテクニクの習得ということでない、ものの見方、捉え方ということで成り立つ学問にも意味があり、本質把握、全体理解といった方向での知識が忘れられてはならないと思う。そして酒枝先生の学問はそういう方向の学問であって、それゆえにそういう自らの学問を貫こうとする先生はある意味で最後の人ということになるのかもしれない。

先生のような人はもう出てこないのかもしれないというもう一つの理由は、先生の生き方に示される熱い情熱と人生にたいする真摯さに関係する。先生の若き日の苦勞、苦難に満ちた生活、その中で選り取った宗教への道として学問への道、それは準備された道ではなくて「先生が」選り取られた道であった。人一倍の熱い情熱と豊かな感情を抱えた先生が、苦しい経済状況の中で自らの生き方を模索する時、誰よりも大きな生きる上での苦勞と苦惱を味わうことになった。しかしそういう道を歩

まれながら、先生は現に誰よりも豊かな人間性と高い品位をお持ちになり、誰よりも心の温かな方でいらつしやる。私たちが先生のその全人格に触れることができるのはたいへんに幸せなことだと思ふ。先生のお人柄はおのずから溢れ出るような形で示される。それは押し売りするような示されるわけではない。内容豊かな話の中に、先生の謙虚さ、深い人間理解、自然なユーモアが自然に滲み出てくるように表現されるのである。先生は巧まざる話術の名手である。そして先生の話には何よりも先生の真実が満ちている。そういう先生の話に、つまりは先生の人格に、心ある学生は引き寄せられるということなのであろう。

本当の教育には、人間の理想像が関与するはずだ。それゆえに、教師の人間としてのあり方を見たいと思う。欠点があるとか器が小さいとかいったことは二の次にして、その先生が何を思い、何を考えているのかわかりたいと思ふ。それはその先生の生き方と結びついて示されるものであろう。自分自身の真実を追い求めて、自分の掲げる理想、幻を一生かけて追求している人、その過程でおのずから若い人に示唆を与えるような先生が本当の教師なのだと思う。そういう教師は稀にしか存在しない

し、これからそういう人は存在しなくなるかもしれない。でも、酒枝先生は正にそういう先生である。そういう意味で酒枝先生は最後の人だということになるのだろうか。そうならボクたちは最後の人にふれることのできた最後の人になるのかもしれない。

酒枝先生を自分なりに捉えてみようとして、妙なことになってしまった。次はゼミ旅行の際の一場面、自分では詩のつもりである。

白いカバーはやはり清潔な感じがいい

ボクたちの他は乗客もまばらな一等車

八人だからちようどうまく座席におさまって

ボクらは幸福だった

あんな山の温泉でとんでもない初雪にあつて

寒さの中から乗り込んだ暖かな列車だ

ボクはこの列車の中で一人だけ先生にほめていただいたのである

「しかし君はよく食べるねえ」

でも これはもしかしてボクのいやしさに

あきれてしまったということなのだろうか？  
先生は鉄道唱歌の全部を唄ってやろうと云い出される

遠くの名なみをいろどったあかね色の空の輝きが  
次第に赤くすすれていくのだった

——\*——\*——\*——

## 心にもある言葉

酒枝先生がキャバレーに行ったそうである。バーの方だったかもしれない。それはまあどうでもいいのであるが、そこには女性がいたのだという。そして、その女性は、先生に向かつてしきりに意味のないことをはなしかけてくるのだった。

「君ら、ああいうところへ行ったりするのですか？ いや、しかし、まさか……」と先生はつづけ、そこで、又、学生たちはワツと笑った。このはなしはその授業に出ていた弟から直接聞いたのであるが、先生が誠心誠意「エツエツ」と相槌を打っている様子を考えると嬉しくて、そしておかしくて仕方がなかった。でも笑いながらなんだか涙が出そうになった。ボクは「意味のないことをはなしかけてくるんですね」という先生の言葉を重大なものだと考へる。それは現代というこの時代のあり方を考えると一層大きな意味を持つてくる。

ボクは先生のこのはなしを人に伝えようとして、最後に「心にもないことを言っではいけない」という

自分の思いを付け加えるようになって。「意味のないこと」を「心にもないこと」と言い替えて、いったい何を言おうとするのか、自分でもはっきり分らないのであるが、まあそれは次のようなことであるらしい。

「心にもないこと」を言う、それは本音と違うことを言うということだが、ここではまともなそういうことを考えているわけではない。御世辞を言うとか、おべっかを使ったりするなどというように意識しているわけではない。そうではなくて、この「意味のないことを話しかけてくる」という酒枝先生の話を聞いて、逆に「意味のあること」＝「心にもあること」が一体自分の中にあるのかという問いが意識されたのだった。口に出すことばと心にあることが一致しているかといった問題の前に、「心にもあること」が自分にあるのか問題となる。

それが「心にもあること」であるならば、どこの誰が言うことであらうと聞かねばなるまいと思う。ほんとうに心の中で育てられたことば、その人の胸に抱えられ、復習され、温められてきたことばならば耳を傾けなければならぬ。言うべくして言われたことばをいいかげんに扱ってはいけない。……でも、そう

いう「心にもあること」が自分の中にあるのか。

ボクは酒枝先生のはなしを聞くと、先生は「先生の心にもあること」をはなしているのだと納得する。「先生における本当のこと」をはなしているのだと確信する。自然科学における必然性といった意味の本当のことではなくて、人間というものに關しての、酒枝先生ご自身に關しての本当のことである。ボクは先生のはなしを聞くと、先生が自分に關わりなく、他ならぬ酒枝先生が、酒枝先生に關わりあることをはなしているのだと納得して安心するのである。酒枝先生は「心にもあること」を話される方であり、「心にもあること」には耳を傾ける方である。そして、酒枝先生こそ、誰よりも「心にもあること」を持つている方なのである。

——\*——\*——\*

以上、「酒・枝・義・旗」、「心にもある言葉」という二つの文章を紹介させていただいたわけだが、いずれも五十数年前の自分の学生時代の文章で、酒枝ゼミの発行していた『出会』に掲載されたものである。前者は私が大学を卒業した年に、後者は卒業後に後輩に頼まれて書いた文章である。改めて酒枝先生について

の文章を書くといっても、先生の宗教、先生の学問について書く資格のない私は、先生の人間としての側面を書くしかない。しかし、今、それを試みても、それは断片的なものに終わってしまうだろう。それは中途半端な内容に終わる可能性が高い。それよりはまだ純粹だった時期の文章の方が先生の姿を明確に伝えることになるのではないか。私は酒枝先生の人間に魅せられて先生に近づこうとした。その時期の生の記録とも言える若き日の文章が、先生の人間性（勿論私の理解する）をより直接に示すことになるかもしれない、くりかえしになるが、それがこの稿についての私の言いわけである。

本誌前号に酒枝義旗先生（その2）を掲載した蘇畑教授が先生が主宰したキリスト教集会の『待辰』に私の「心にもあることば」を紹介する文章を書いて、（学問の弟子でも信仰の弟子でもないけれども）「本物の酒枝ファンである早坂」と私のことを表現して下さったのは十数年前のことである。「酒枝ファン」しかも「本物の」……いい表現をしてもらったと思っ、たいへん嬉しかった。それがきっかけでここに掲載するふた

つの五十数年前の文章がよみがえったのであった。

今度あらためて二つの自分の文章に目を通してみて、自分の酒枝先生の見方、思いが当時と何も変わっていないことを確認することになった。それは自分に進歩がないということの意味しているかもしれない。

なお五十数年前の自分の文章を読んで、内容において修正しなればならない箇所は見当たらなかったが、文章として通りの悪いところを少々手直した。

〈東京富士大学初代（通算八代）学長



筆者（左）と二上貞夫先生（右）

## 活躍する校友

### 南画と私

諸岡佳子



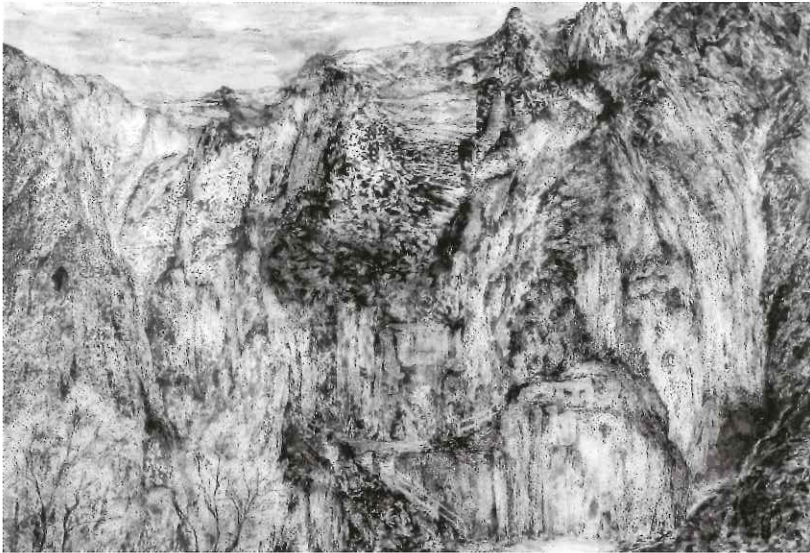
私は昭和44年一部経済学科の卒業です。昭和50年に郷里の茨城県竜ヶ崎市の有限会社を設立、三井住友系の損害保険及び生命保険代理店を経営して現在に到っております。

を言います。文人画水墨は、学者にして政治家（高級官僚）、しかも漢詩文にも通じていたという士大夫階級の人達が描いた画で、彼らは「詩中に画あり、画中に詩あり」と言っており、詩書画三絶を理想としました。

私は50歳ごろから趣味で水墨画、それも南画を始めました。水墨画は、墨の濃淡で無限の色を表し、対象物の奥深い精神性を描き出そうとするものです。

日本に水墨画が伝来したのは室町時代で、中国に留学した禅僧たちが禅画として持ち帰りました。しかし南画の到来は徳川時代に入ってからです。

現在水墨画は、日本画水墨、文人画水墨、南画水墨に分けられます。日本画水墨とは、狩野派や丸山派などの宮廷画



第51回 日本南画院展 特選 「奇巖孔」



第54回 日本南画院展 作家賞 「幾代の桜華」

実行番号	第51回展の鑑査、陳列について御通知(一部)
入選	あなたの作品は鑑査の結果、展覧の通り決まりました。
陳列会場	入選の場合、鑑別の結果、陳列場所は左記の通りです。 東京都美術館 国立新美術館 大塚市立美術館地下展覧室 京都市美術館
公募	第51回展 審査通知
特選	あなたの作品は審査の結果、特別の通り入選されましたので、鑑査結果は、 平成二十六年四月八日(金)午後三時三十分より、 東京都美術館(東京都千代田区千代田)にて取り行いますので、御覧下さい。 平成二十六年四月八日
日本南画院	公益社団法人 日本南画院

実行番号	第54回展の鑑査、陳列について御通知(一部)
入選	あなたの作品は鑑査の結果、展覧の通り決まりました。
陳列会場	入選の場合、鑑別の結果、陳列場所は左記の通りです。 東京都美術館 国立新美術館 大塚市立美術館地下展覧室 京都市美術館
作家賞	あなたの作品は審査の結果、特別の通り入選されましたので、鑑査結果は、 平成二十六年四月八日(金)午後三時三十分より、 東京都美術館(東京都千代田区千代田)にて取り行いますので、御覧下さい。 平成二十六年四月八日
日本南画院	公益社団法人 日本南画院

南画水墨は、唐の王朝に仕えた詩人王維が詩意を画に表わそうとしたところに始まったとされていきます。明代も末期になって文人にして書・画家の董其昌が中国絵画を南画と北宋画に分け、以後南宋画を南画水墨と言うようになりました。禅に南宋禅と北宋禅があり、二つは修行の仕方が異なっています。北宋禅は修業の仕方を逐一教えてくれますが、南宋禅は自分自身で悟りなさいというやり方です。董其昌は禅のこの二分法に倣って中国絵画を二分したのです。

南宋画は「万巻ノ書ヲ讀ミ、万里ノ道ヲ往ク（出来るだけ多くの本を読み、出来るだけ多くの物を見る）」ことを通して得られた心性の働きを以て創作し、気品と個性のある作品を理想とするものです。「南画」は南宋画の略称として幕末になってから使われるようになったのですが、中国ではこの呼称はあまり使われていません。

江戸時代も中期以降、大雅、蕪村、玉堂、木米、米山人、文晁、崑山、竹田等により日本独自の「南画」の基礎が築かれていきました。

私の属する「日本南画院」は、富岡鐵斎と田能直入が明治29（1896）年に京都で創設した日本南画協会に端を発しますが、一度途絶した後大正10（1921）年に小室翠

雲、矢野橋村によって日本南画院として再興されました。昭和35（1960）年松林桂月（文化勲章受章）、矢野橋村（芸術院賞受賞）、河村秋邨（創立理事長）らによって社団法人化され、さらに平成22（2010）年公益社団法人となって今日に到っております。

私自身は日本南画院同人 諸岡佳として、毎年3月に国立新美術館で開かれる日本南画院展に作品を発表する他、新宿世界堂での松籟会墨彩画展に出品するなどの活動をしております。こうした活動を続ける中、幸いなことに日本南画院展の「作家賞」、「特選」、「東京都議会議長賞」、「佳作賞（2回）」、「日本南画院秋季展賞」などを受賞しております。

古代ギリシャを源泉とする文化がシルクロードに沿って東へ東へと進み日本へ達する、これに重なる形で私の手掛ける南画も中国から日本へともたらされました。それらの多様な文化は積み重なるように蓄積され、日本の風土で熟成されて、独自の文化ミックスが形成されました。その長い時間の流れと無数の人の地道な営みの集積、私もその繋がりの中にありその末端に立っているという思いがあります。この意識に支えられ、この大きな流れに学びながら未来に向かって創進し続けてい

きたいと思っております。

少女時代からまわりのものに心奪われるようなところがありません。砂出し中のあさり貝の殻の紋様と色に見入って飽きなかったこと、女郎蜘蛛のあの怪しい色と姿を身を固くしてずっと眺めていたこと、庭に咲く季節の花々への関心、学校帰りに和菓子屋、呉服屋、瀬戸物屋、桶屋等の店先を眺めるのが大好きでした。（活気ある商店街と路地を抜けたらすぐそこへ広がる田畑はワンセットで私の心の中の原風景になっています）暮らしの中にも魅力的なもの一杯ありました。

季節ごとに架け替えられる床の間の掛け軸、正月や盆の飾り付け、秋の虫干しで家中に広げられる祖母や母の衣装、赤い生地で縁取りされた緑色の蚊帳……。

これらに残る懐かしいものを絵で表現したいという漠然とした思いがずっとあって、余裕ができてから油絵を始めたのですが、部屋に残る絵具の匂いに耐えられぬと我が亭主が申しましてやむなく墨絵に転身、日本南画院副会長の市川皓先生

に師事して18年経ちます。師は寛容にも私の自由な創作を認めこれを伸ばそうとしてくださいました。あれやこれやありましたが、直接的には主人の油絵（ではない）絵具への拒否反応に押される形で始めることになった。この道は、案外私に向いていたのかもしれない。油絵の重ね、足す手法ではなく、白地を抜くという引き算を基本に置く画法に沿いながら、これからも生き延びたいと存じます。

（昭和44年 経済学科）



第51回 特選作の前に立つ諸岡氏 国立新美術館

会員だより

## ヒマラヤとチベット紀行

校友会顧問 弁護士 樋口光善

### 『雄峯』第53号

#### 「ほたび会」を読んで

雄峯53号で、早坂忠博名誉教授が富士短期大学に奉職中、ワンダーフォーゲル部「ほたび会」を創立し、学生の在学期間が2年間という制約の下で、部員らを引率して事故も起こさず、17年間継続して指導してこられたことを知り、敬意を表します。私も昭和21年に大世学院に入学し、当時私の趣味は登山だけでしたので、戦前から休みの日には関東甲信越の山々を歩いておりました。



早坂名誉教授の山旅の記載文を読み、懐かしく思い出されたので、本文を差し上げる次第です。

在学时、中井の校舎に通学しておりましたが、中井駅を下車して、西武線の踏切を渡り、校舎に向かう途中の左側の線路脇に本屋があり、その主人が山と溪谷社出版の「南アルプス」の筆者であったので、私は当時南アルプスや奥秩父に行くときは、文献もない古い時代だったので、同店の主人に、彼が執筆した本を持参し、山道について、訊ねてから行き、甲斐駒、仙丈ヶ岳、鳳凰三山や北岳から間ノ岳迄の縦走等を踏破してきました。

当時、私のクラスで、登山に興味を持っていた人は3人しかおらず、会など作れるような状態ではありませんでした。

その後、大世学院を卒業して日本大学の法学部に編入学し、弁護士になりましたが、登山だけは継続して歩いて、後立山の縦走、剣岳から立山、雲の平を巡り槍ヶ岳迄の縦走などもしました。その後、ヒマラヤ、南米のパタゴニアなども行きま

した。いずれも懐かしく憶ばれてなりません。

今は年老いて、歩行も充分ではないので、行くことも出来ず、早坂名誉教授の書かれた「ほたび会」を読み、会が存続していることを知らされ、往時をあらためて懐かしく思い出した次第です。

早坂名誉教授には今後も、益々お元気で校友たちを指導してくださいことをお願いいたします。

添付しましたつぎのふたつの文は、私が過去にヒマラヤとチベットを旅行したときの紀行文です。弁護士会会報に書いたものですが、お暇の時に、お読みいただければ幸いです。  
(平成27年7月)

### ヒマラヤ展望(一九八七)

今年の正月にヒマラヤをみるためネパールに行った。ヒマラヤをみるには一月から二月頃迄が天候が定まっています。一年中で一番よい季節と言われているので正月休みを利用していった。

ネパールの首都カトマンズは二二年振り二度目であり、今回はそこからポカラにいき、トレッキングをしながらマチャプチャレー、アンナ

プルナ、ダウラギリ、マナスルという有名なヒマラヤの山々を展望してくる予定で行った。

カトマンズに行ったとき丁度ネパールの首相の誕生日だったので非常な賑わいで首相官邸前大通りを何十組も多数の人達が何時間もかけて祝賀行進をしていた。第二次大戦中、日本軍とビルマ戦線で激しく闘った勇猛果敢な山岳民族グルカ兵も参加していた。山登りも三〇年振りに歩くので足のすじを痛めない心配だったが、旅行社は軽いトレッキングですから心配ないというので参加した。弁護士は毎日三、四キロは歩いているので、なんとか行けるだろうと思った。

八千米以上の山は世界に一四峰あり、そのうちにネパール山脈の中に九峰あり、残る五峰はパキスタンにあるカラコルム山脈の中にあり、他にはない。

カラコルム山脈の中にある世界第二の高峰K2(八六一一米)及び八二二五米のナンガパルバットは五年程前フンザにいったとき飛行機で山のすぐ上を通り帰路はジープで美しい山頂をみながら走り、よく跳めることができた。ここを飛ぶ飛行機は世界で一番高いところを飛ぶ飛行機で、ときどき事故が発生するので有名どころである。

今回はカトマンズからポカラにゆ

き、ポカラでトレッキングをしたが、その外にカトマンズから小型飛行機でエベレストの近く迄飛び、エベレストを空からみることにした。エベレストの遊覧飛行機は四〇人乗の小型で、早朝に飛行場にいったが、辺りは濃霧のため数米先が見えない状態で、二時間近く待機していると太陽が昇り、霧が消え、天空が見えだし、間もなく小型飛行機は飛び立った。滞空時間は一時間であるが、ヒマラヤの素晴らしい景観をみる事ができた。特に長い間いきたいと思っていたエベレストを山頂の二三キロ手前の近くまで飛んでみた景観は筆舌につくせない程素晴らしい、感動の連続だった。

以前八二五米あるナンガパルパットの上空を飛行機で飛んだときも感動したが、真近みる八八四八米のエベレストはさすが世界の最高峰だけあって、ど迫力があり。飛行機はカトマンズから中国国境の西端からエベレスト迄真横に飛び、次第にエベレストに近付き、エベレストからUターンして帰路につく。

ダーズリンにある八五九八米のカンテンジャンカーはこの遊覧ではみる事ができなかったが、帰路にカトマンズからバンコクにゆくときによく見えた。私は中学生の頃から弁護士になって三年位迄の間に、北南アルプス、関東甲信越の山々の

殆どを登っているが、ヒマラヤとパミール高原とアンデスに長い間憧れを抱いていた。

私が初めてソ連のシルクロードにいったとき、アルマータに向かつて飛行機が飛んだとき前方左側に六七千米級のパミールの蛾々たる山脈をみたとき、心臓の鼓動が止まる程の感動をうけた。写真をとりたかったが、機内でソ連の監視官が目を見光らせて絶対に写真はとらせなかった。パミールは中国とパキスタン領であり、ソ連の山ではないのはいかた文句を言ったが、取り上げてくれず写真は、とらせなかった。他国領の山の写真をどうしてとらせないのであるのか理解できない。

今度のエベレストの遊覧飛行はそれにも勝る景色で深い感動をうけた。写真は自由にとらせてくれた。

ポカラからアンナプルナ、ダウラギリ、マチャプヤレー、マナスル等を見るためにサランコットという二五〇〇米位の小高い山を二時間三分位掛けて登った。そこからみる前記四山はポカラ市内よりもずっと近くからみる事ができ、非常によく見え、素晴らしい雪岳の連続であった。頂上辺りの茶店でビールをのみ、弁当を食べていると上空を三羽大きな鳥がゆうゆうと舞っていて、羽根が一部白いので、もしかやと思って茶店の少年に鳥の名を尋ねると、こと

もなげに「イーグル」と答えた。鷲がこんな人家の近くに数羽ゆうゆうと飛んでいるとは流石にヒマラヤだと思った。

ヒマラヤ以外に大型の鷲は南米のアンデスしか飛んでない。

昨年夏、中国の天山路をウルムチからカシユガル、ホータン迄約二千里を二週間車で毎日天山山脈をみながら疾走したが、鷲はついで一度も見掛けなかった。

アンデスもチリ側の人里離れた辺境の山頂辺くでないと飛んでいない。

もう一度ヒマラヤにゆきたいと思っているが、今度はチベットの首都ラサから五五〇〇米の峠を越えてエベレストの脇を通りチベット側からヒマラヤ山脈をみながらカトマンズに抜きたいと思っている。

(二弁会報特集号第一九二)

## 鳥葬の国 (一九八八)

永い間行きたいと思っていたチベットに昨年の夏休みに行ってきた。行く五ヶ月前の三月に、ダライ・ラマがアメリカで中国政府のチベットに対する政策について批判していたのが原因で、ラサでは死傷者が多

数出る暴動となったが、私が行った時は既に平静化されていた。

東京から上海、成都、ラサと四時間、四時間、二時間の計十時間の飛行時間でチベットに入国出来る様になった。十年前迄チベットは鎖国政策をとって外国人は入国できず、戦前にチベットに入った日本人は、国籍を偽りチベット人に化けて入国した僧侶河口慧海と大谷探検隊を送りこんだ多田等と、第二次大戦中に日本軍部の司令部から諜報員として危険を冒して入国した西川一三外二名と、全部で五人位しかいなかった。チベットに正式に入国できる様になったのは三年位前からである。今年北京で天安門広場や成都での暴動事件が発生したので、また行かれなくなりました。

途中に通る成都は鄧小平ら現中国政府幹部ら四川族の故郷であるため、立派なホテルができた町なみも近代化されてきている。田中角栄が新潟の町を立派にしたのと同様である。成都からラサの飛行場に降りると、周囲は五千米から六千米級の山々に囲まれていて、ラサの町も三千五百米の高原にある町で、チベット高原は地球上でも最も高い所にある広大な高原であり、気圧が低く酸素が少ないので、飛行機を下りるとすぐ頭痛や軽いめまいがしてくる。チベットの飛行場に着いた時は、



過激な運動とアルコールは慎む様に言われていたので、ゆつくりと歩行し、酸素の不足を補うためには鼻からだけ息を吸うのではなく、口をあけて双方一緒に呼吸をすることにしている。酸素を多く肺に送り込む様にした。こうすることにより身体を環境に

順応させ、高山病に掛からない様注意した。しかし、一緒に行った他の人達の中からは次々に高山病に掛かり、酸素ボンベをとり出して酸素を吸っていた。私は、ボンベの吸入酸素は五分間分位しか入っていないので五分間だけボンベから酸素を吸っても仕方がないので、そんな物を頼るより、大きく鼻と口から酸素を大量に吸う方が高山病を防ぐ最良の方法であると思つて、酸素ボンベは使用しなかつた。ビールは、二日目からは普通に飲める様になった。

第一日目の午前中は身体を高いところに順応させるために休養し、午後から周囲を見物する様にした。

チベット人が歴史上に現れてくるのは、七世紀からソンツェン・ガムボ（五八一〜六四九）が現れて、チベット高原に割拠していた諸部族を統一して建国したときからである。これが古代チベット王国吐蕃である。

ソンツェン・ガムボが強大な軍事国家の基礎を築き、インド・ネパール、唐の国迄も脅かす程の力をもつ

に至つた。唐の都長安も一時侵略されたこともある。唐からの太宗の娘文成公主を妃として迎えることとなり、熱心な佛教信者だつた妃の協力と影響により、以後吐蕃と言われたチベットが熱心な佛教信仰国となつた。

中国の歴史には、政略結婚で漢民族を脅かす匈奴、その他の蕃族のところに嫁いでゆく悲劇の女性の話がよく出てくる。王昭君や烏孫に嫁いだ若い王妃の話などが有名である。烏孫（現在のソ連領キルギス共和国から、中国の新疆ウイグル地区にまたがっていた地域）に嫁いだ王妃が、漢から来た母国の使者に持たせて帰つた一編の詩がある。

わたしの家は、わたしを嫁がせた。

わたしが仕えているのは、異国鳥孫の王さま。

まるい家、けもの皮の壁  
食べものは生の肉、すするのは  
すえた乳

明けても、暮れても、悲しみで  
心は痛み、

思い出されてくるのは、故国の  
ことばかり。

ああ、鶴になりたい。  
あの鶴になれたら、高い高い空  
を飛んで、

夢にも忘れない故国に、帰れま  
しょう。

いかに政略結婚とは言え、この詩を家族が読めば正に断腸の思いがする詩である。この詩を書いた妃はおそらく、水々しい感性をもつた美しく、聡明で、情熱的な少女だつたと想像される。

しかし、チベットに嫁いできた文成公主は右の女性とは異なつた大変積極的な女性で、都長安を出て二ヶ月もかけ高い五千米の峠を越えて、チベットのラサに入国した。途中の峠迄夫になる人に出迎えないことせ、一緒に高い山を越えてラサに入り結婚して、チベット民族に同化し、粗野なチベット蛮族に慈悲心を植えつける様に母国で信仰していた佛教を布教させる為に国王に働きかけ、チベット全域に佛教を広めた。

その後、モンゴルとも強い繋がりをもつ同盟国となり、フビライの信任を得て政治と宗教の権力を握って栄えた。現在のチベット人は佛教の変形したラマ教の信仰者で、この国程、生活と宗教とが密接に結合しているところはない。イスラム圏やインド、ネパール以上である。

寺院の前で、礼拝するために五体投地という拝み方をしている。これは大地に自らの身体全部を投げ出し、その後立ち上がって腰を曲げ頭を下げて礼拝を何十回も繰り返す祈り方である。寺院の門前や仏の前で五体投地を繰り返すだけでなく、

寺院の周囲を五体投地をし乍ら廻つたり、また遠く離れた土地から聖地カヘラス山へ、何か月もかかつて五体投地をし乍ら巡礼する人もいる。全身全霊を仏の前に投げ出して帰依を表す最高の礼法なのである。

ラサ最大の寺院はポタラ宮であり、これはラサの町の高い山の上に建てられた二三階建の建物で部屋数が一〇〇もある大きな寺院で、どこから見てもよく見える。下の壁が白く、上部の建物は赤く、その上に金張りの屋根がついて金色に輝き、威風堂々とした堅固な要塞の様な伽藍である。戦艦大和や武蔵が数隻固まつて、ラサの町を守っている様な感じがする。中に入ると巨大な部屋が幾つもあり、どの部屋もヤクの乳で造つたバターを信者が少し宛持参して、大きな灯明台に乗せて灯をともし、それが一日中灯っている。ヤクのバター特有の臭いがする薄暗い巨大な寺院の部屋の中に、大きな金色の佛像が数体置かれている。巨大な壁画や張幕も張りめぐらせてある。

ラサには大小とりまぜて二十ヶ所位寺院があるが、私は、毎日マイクロバスとリntaxで全部みて廻つた。ここにはタクシーはまだない。裁判所と検察庁も大通りに面してある。外の壁面に刑事判決文が公示してあつた。

ホテルは、ホリデー・インが経営している立派な近代的なホテルが去年から出来ていた。

ラサからは四千五百米と五千五百米の峠を二ヶ所越し、チベット第二の都市シガツェに向う。峠には七千米の山から流れ落ちた氷河が、峠の近く迄流れていた。他では見られない追カのある素晴らしい景観である。途中ギャンツェという町を通り、シガツェ迄二日ばかりで行く。この当たりは昔イギリス軍がインドから浸入してきたところで、チベット軍と劇しく戦火を交えたところで、山の上に要塞の跡が残っている。

シガツェのホテルで二弁の会員田村正孝弁護士と逢う。お互いに東京にいても殆ど何年も逢わないのに、広い地球上で、多分一生に一度しか泊まらない僻地の簡易宿泊所に同じ日時に逢い、同じ屋根の下で、同じ釜の飯を食うのも何かの縁だと思ふ二人で握手し、お互いの旅行が無事に完了することを祈った。田村先生はこれからエベレストの近くを通りネパールのカトマンズ迄行くとのことである。私は往路を戻りラサに行くことにした。

ラサの近くにセラ寺という寺がある。この寺は、河口慧海と多田等観が身分を隠して滞在して、チベット教典の研究をしたところである。セラ寺の裏山に死体の埋葬場（正確に

いうと死体処理場）があり、ここが世界でも珍しい鳥葬の行われるところである。チベットには鳥葬の行われるところが二ヶ所あり、他はシガツェにもあった。

私が行ったのは十一時頃だったが鳥葬の行われるのは早朝で、死体をナイフでバラバラにして頭蓋骨は石で割り、ハゲ鷹の食べ易いようにする。鳥の食事の準備が出来上がると天空に向かつて笛を吹くと、どこからともなく数十羽のハゲ鷹が舞下りてきてバラした死体を啄み、天空に高く舞上がって飛んで行く。これを天葬と言っており、鳥が魂を天に運ぶからだそうだ。私が行ったときは食後で、ハゲ鷹が二十羽位悠々と天空に舞っていた。

チベットの死体処理法に四種類あつて、一番高級なのが火葬である。これはダライ・ラマとかパンチェンラマの様なチベットで最も宗教上身分の高い地位にある人だけしか、火葬で焼かれない。周囲が岩山ばかりで、死体を焼く燃料となる木がないからである。

大部分の人は、鳥葬である。日本の医師で三年前にエベレスト（中国名チョモランマ）に日本人の登山隊が中国側から登ったとき、同行した医学博士で日本の著名な高山病の専門医師が高山病で急死した。そのとき、家族の人達が火葬にして遺骨

を日本に持って帰りたいと願ひ出たが、地元の人達にこれを拒否され、チベット人と同様に鳥葬にされてしまった。チベットで死亡すれば余程偉い人、総理大臣でもない限り全部が鳥葬である。吾々も、この地で死亡すれば、鳥葬である。

その次は水葬であり、これは身分の下等な乞食や貧しい人達の葬式で、死体を裸にしてその儘川に流して葬り、死体は魚の餌になる。この習慣がある故か、チベット人は殆ど川魚を食べない。川はチベット高原からヒマラヤの麗をUの字型に廻つて、インド洋に流れ込む大河プラマプトラ川の上流のツアンボ川である。

最後は土葬であつて、これは罪人又は伝染病で死んだ人を土中に埋める遣り方で、斯る人間の死体を鳥葬にすると聖なるハゲ鷹が悪や病気で汚染されるから、鳥に死体を食わすことはできないので、土中に埋めて他に悪影響が及ばない様にすることである。（中略）

チベットは世界の屋根と言われる位の高地（平均三千五百米位）で、高い山に囲まれていて自然環境の厳しいところである。しかし此処でみる空の色は、世界一美しい。日本の台風が去った後の澄みきった九月中旬頃の空の色と同じである。風は冷たく清々しい。又、ここには世界で

最も美しい花と言われている、青いケシの花が咲いている。

チベットも文化大革命のあつたときには紅衛兵のために二千以上あつた寺院の大部分は破壊され、残つた大きな寺院は反抗する僧侶を入れる刑務所や留置場にされていたが文化大革命が終わつた後は行き過ぎが反省され、各地で毀された寺院の再建がなされていて、現在破壊された寺の半分位が復興している。破壊された極彩色の壁画なども時間をかけてゆつくりと修復されている。

我々が山間の僻地で車を止めて休んでいたら、十五歳の少女が片手でマニ車をまわしながら片手を出して何かを貰いたがっていたので、食物や金でも欲しがっているのかと思つてよく聞いてみると、ダライ・ラマの写真が欲しいとのことであつた。ダライ・ラマの写真は持つてなかつたが、手持の本にダライ・ラマの写真の口絵が印刷されていたので、そこを切つてやつたところ、少女はすぐに家を持って帰るやその話を家族や、近所の村人に話したらしく、十人位の村人がダライ・ラマの画を貰いにやつてきた。ダライ・ラマの写真なり口絵を佛前に飾つて、毎日礼拝することである。（以下略）

（二弁会報特集号第一九三）  
（昭和24年 大世学院政経科卒）

## 会員だより

### 本学に入学の動機と暮らし

関山賢司

私の家は水道工事材料の製造販売業の経営をしていました。

1950年朝鮮戦争が起き、日本経済は朝鮮特需と日本の戦後の経済復興で神武景気が訪れました。

数年後に突然会社で税務調査が入り、難題が発生したのを見て、私もこれからは税務の勉強が大事と感じました。

昼間は親の手伝い、夜は簿記学校へ通いました。その時の友人高田政勝氏の紹介で本学を知り、一ヶ年遅れて本学に入学し、在学中は大学の



後列左から二上仁三郎先生、駒崎勉助教授

行事と学友会の行事に積極的に参加しました。

先日、自宅のアルバムを見て課外活動で横浜の山下公園で先輩と記念写真や三浦半島へのバス日帰りで行った時の本学事務職員の中島氏の記念写真もあり、日光東照宮では二上仁三郎先生との記念写真もありました。

また、本学の初代学長勝保銓吉郎先生が入院されていた市ヶ谷の病院へのお見舞に行ったり、文化祭の時に会場の飾り付けを徹夜で昼間部と同じ進行して遣り遂げたこと、学友会役員で水上スキー場へ行き夕食時は本学の荻野公剛学生部長との楽しい思い出があります。

卒業の時、本学会計課の渡辺寿美子氏の推薦で校友会の役員になり、今日まで50数年間続けさせて頂いております。

卒業数年後に後輩の中間試験と期末試験の試験会場の監督にも参加させて頂きました。

文化祭（現東京富士祭）のほか体育祭は西川口グラウンド時代、板橋

区の城北公園時代、現日高グラウンドには20年連続して参加しています。

校友会の支部にも積極的に参加しています。埼玉支部長中川建三氏のもと、昭和46年4月5日埼玉県川口市川口産業会館で結成大会が開催されました。昭和47年2月6日神奈川支部結成総会を横浜にて小林逸路担当で開催。昭和62年10月23日福島支部再建大会を郡山駅近くの玉姫殿で開催しました。当日約30名以上参加し本部より10名程出席しました。支部長数間治久氏。平成10年10月24日岩手県支部結成（花巻市の富士大学六号館大会議室）。

昭和58年11月12日婦人部結成、平成5年2月13日フラインの会開催。本学の文化祭と同時に婦人部はバザーも数回実行しました。

囲碁部OB会でも箱根湯本温泉「パークス吉野」で三日間連続の囲碁トーナメント大会と三浦半島城ヶ島や秩父郡荒川村での囲碁トーナメント大会にも招待されました。

少林寺拳法雄峯会創部30周年記念を「センチユリーハイアット」創部40周年記念はビックボックスでも招待されました。

ゴルフOB会でも関東地区の沢山のゴルフ場と毎年末の忘年会にも参加させて頂きましたので思い出が



理事会（箱根にて）

いっぱいです。

私は本学卒業を機会に港区白金の実家を出て豊島区の現在の所へ移り、翌年春に創業し、現在にいたっております。今から50数年前に起業すると税務問題が大事であったが、10年ごとの、政治、経済の変動によって対応しなければならず、労働災害や経済犯罪詐欺などが増えて来たので法律的な勉強が大事になり、労働災害を無くすために工事現場の事故防止を、極力心掛けて指導しました。

福島県支部と岩手県支部では支部会員を募集中、両県に関係・関心のある方御一報下さい。

（昭和36年 経済科二部）

## 米国の番号制度に見る日本の個人番号

青野 貴礼 たかゆき

筆者が以前アメリカに留学した際、最初に得た個人番号は、学校の学籍番号でした。

筆者の写真と学校の学籍番号が付された学生証は、学内と地域に於いて身分証明書として機能しましたが、公的な証明書として認められたのは事実上、酒屋や映画館での年齢確認の際に於いてのみでした。

公的な身分証明書となると、やはりパスポートか免許証が求められました。そして、免許証を取得する為には、市役所で「社会保険番号」(SSN)を発行してもらう必要があります。パスポートとビザ、学校の学生証。留学生がSSNを発行してもらう為には、この三つが必要です。パスポートは本国から正規の手続きで出国していることを証明する為、ビザは正規の目的(この場合は留学)の為人国・滞在していることを証明する為、そして学生証はビザで示された目的の通り学校に在籍していることを証明する為です。SSNを発行してもらうことで、「米国籍滞在外」ではなく「米国居住者」

として認知されるのです。

免許証を取得すると、その免許証の番号はSSNと同一であることを知ります。が、自身のSSNを見る機会は免許証番号だけではありません。学校の学籍番号もそれまでの番号が破棄されSSNに置き換わりました。銀行で口座を開いた時の預金者番号もSSNでした。それどころか、レンタルビデオ店の会員番号でさえ、SSNを使用していたのです。それだけでなく、投票者名簿もSSNで管理されていますし、労働者の納税もまたSSNで管理されます。

では、SSNは個人情報として秘匿する必要があるのでしょうか？いいえ。何故なら、何処にでも使われる番号なので、秘匿する意味がないのです。万一流出したとして、どんな問題があるのでしょうか？また誰でも知り得る番号なら、それが悪用される恐れはないのでしょうか？

例えば、レンタルビデオ店のアルバイト店員は、顧客のSSNを知ることが出来ます。ではそのアルバイ

ト店員は、顧客の交通違反の履歴や税の滞納の有無を知ることが出来るでしょうか？いいえ。何故ならレンタルビデオ店の端末からは交通違反履歴が収納されているデータベースへアクセスすることは出来ず、仮にできたとしてもアルバイト店員のIDではそのアクセス権限が認められていないからです。

勿論、他人のSSNを使用したなりすまし被害は米国でも多発しています。たとえば、他人のSSNを使用して銀行口座を開設する、年金等の不正受給を行う、等です。が、しかしその事件を詳細に調べてみれば、本人確認をSSNのみに頼った結果ということがわかります。日本でも電話番号のみ、生年月日のみの確認で本人照合を行うとき、そこに悪意が介在することで同様の問題が既に起きております。

日本の個人番号制度は、米国のSSNを参考にして作られているといえます。が、データベースの一括管理をしていないので、例えば国税局の端末から、最高位のIDで誰かの個人番号を閲覧したとしても、税金の納付/滞納等の情報しか得られない、ということなのです。

現在の日本でも、個人情報の流出問題が連日報道されており、しかしそれは、①データベースにアク

セスできる端末から、その権限を持つ人間が故意または悪意、或いは過失によって流出させた。②何らかの理由で本来権限の無い筈の人間にその権限を与えた結果、その相手が流出させた。③メンテナンス等で端末を第三者の管理下に置いた際、権限設定が不十分で第三者が閲覧できる状況になっていた。等が理由であり、すべて管理者個人に帰すべき問題です。つまり制度やシステムの問題ではありません。権限のある人の行う不正は、その人の職業倫理と良識によって防ぐしかないので。

そしてこの場合、個人番号は個人の住所や生年月日などと同じ、個人情報の一つに過ぎません。個人番号があることで秘匿される情報も公開される情報もないのです。

「マイナンバーが漏洩したら、自身の個人情報が丸裸になる」とマイナンバーに否定的な人は言います。しかし、「マイナンバーが漏洩する」状況では、マイナンバーとともにその他の個人情報の全てが漏洩しているでしょう。そしてそのリスクは、マイナンバー法施行前と何ら変わるどころではありません。

つまり、個人番号の安全性と漏洩リスクは無関係なのです。

(平成18年 経営学部夜間主  
平成22年 大学院経営学研究科修士課程)

## 支部訪問記

### 岩手県支部活動の回顧を兼ねて 副会長 関山賢司

校友会岩手県支部設立は校友会顧問青木伸氏により平成10年春から準備に入り、富士短期大学卒業生の木村裕子氏（富士大学広報入試課）に頼んで創立準備にかかり、平成10年10月24日創立記念日となりました。

花巻市の富士大学6号館2階会議室で、校友会岩手県支部創立記念式典に入り、開会の挨拶木村裕子氏、司会者新淵勇篤氏、議事録署名人藤沢優子氏、小日嶋順子氏、議題は校友会岩手県支部創立の承認をお願い、校友会岩手県支部の規約承認、毎年一回総会を開催する。校友会岩手県支部の役員は支部長佐藤哲雄氏、以下原案通り可決しました。

式典後富士大学構内を案内いただいた後、懇親会をおこないました。第2回総会は平成11年11月26日花巻市の花巻温泉「松雲閣」で開催し、総会後懇親会で楽しい思い出話をしながら宿泊して、翌日は青木伸顧問宅へ寄りました。

第3回総会は平成12年9月30日盛岡駅ビル「メトロポリタンホテル盛岡」で総会と懇親会を開催し、市

内観光と物産展を見て帰りました。

第4回総会は平成13年10月6日盛岡市の旅館「四季亭」で総会と講演会。講師は横沢利昌先生（元富士短期大学教授）、演題「老舗企業の研究、100年企業に学ぶ」

老舗の後継者の要件は第一に老舗はつねに自己革新を、くり返さなければならぬ。第二に老舗はつねに人材養成をはからなければならぬ。歴史は古くても経営は新しくなければならぬ。第三に老舗はつねに地域社会への奉仕を心がけるべきである。老舗の家訓のほとんどが「公儀第一」をうたっている。知識、才能、行動力など必要であり、学歴も経験もあるに越したことはない。講演後懇親会で楽しく過ごさせて頂きました。

第5回総会は平成14年10月5日花巻市の「やぶ屋本店」で、例年通り決算報告、情報交換等の後、わんこそば大会などして終了しました。

第6回総会は平成15年10月4日花巻市の「ホテル志戸平」で総会と講演会。講師は富士大学石橋恕篤教授、演題「経済犯罪と尊厳死について」

自由、公正な経済活動が行われるためには財産権の尊重、経済取引における信義則が確立されなければならない、これを無視して他人に損害をあたえる行為は公正な自由競争を基礎とする経済体制を内部から崩壊させるとして禁止されなければならない。経済犯罪の中核をなすものは主に詐欺、横領、背任、贈収賄など、刑法その他の罪則にふれる不正な行為である。

尊厳死はたとえば交通事故による外傷、脳血管障害など、呼吸はあるが血液循環が困難になった場合生命維持治療が行われる。この種の救急医療の進歩は目覚ましい。しかしその反面、自発呼吸や血液循環は回復したのに意識は戻らない状態の患者が多く生まれるようになった時に、植物状態患者をめぐる法律問題は、家族を抜きに考えられません。

第7回総会は平成16年10月20日北上市、「株式会社みちのくジャパ」の会議室で開催し、総会後にアメリカンワールド内で懇親会をさせて頂きました。

第8回総会は平成17年10月15日花巻市の花巻台温泉「炭屋台の湯」で総会と講演会。講師富士大学渡邊幸良助教授、演題「人口減少社会と地域社会」。

内容は岩手県の困難低所得層の

推計と生活保護、貧困調査の系譜を踏まえて。川崎市の路上生活者の現状と社会移動に関する考察などでした。講演後懇親会に入る

平成27年5月23日16時北上のアメリカンワールド施設内のバンビーノで岩手県支部会議。支部事業活動とその他報告等。引続き、総会は同施設内郷土芸能居酒屋「鬼剣舞北上店」で開催され、支部長小原寛氏、支部事務局木村裕子氏と会員、本部より石井末之進・関實・佐藤雄一郎・関山賢司・藤井直の各氏が参加した。

会議後、懇親会は鬼剣舞踊を見学して一時楽しく過ごさせて頂きました。帰りは数人で支部長小原寛氏の自動車で夜の市内観光をして、宿の北上駅前のアーバンホテルへ。

株式会社みちのくジャパンは、支部長の小原寛氏が代表取締役社長でレーシングクラブのレーサーです。小原モータースポーツを本格的に始め、店舗145店舗、社員700名、田沢湖と秋田でホテルを運営しています。

校友会の皆様岩手県に關係のある方御一報下さい！  
岩手県支部入会者募集しています。

（昭和36年 経済科二部）

## 支部訪問記

# 福島支部を訪問して 副会長 森川 昇

平成27年10月3日(土) 福島支部総会に私と平柳事務局次長で出席しました。当日、私は、平柳さんとは宇都宮で落ち合うことにしていました。車内で平柳さんの顔を見つけるとそばに関山副会長もいましたので心強く思いました。私は総会に出席するのは今回で2度目、前回は2年前本間執行部が出来たときに初めて参加しました。早いものであれからもう2年経ちました。

郡山駅周辺は高いビルもあり都会という感じがしました。会場は駅から5分位の便利な場所にあり、3時頃会場のホテルにつきました。総会は4時からなので、1階の喫茶でコーヒータイムをとりました。

総会は久下事務局長の司会で、三浦副支部長の開会宣言、千葉支部長のあいさつで始まりました。三浦副支部長から2年分の事業報告と収支報告がされ、五十嵐監事から適正



であるとの  
監査報告が  
あり承認さ  
れました。  
続いて今後  
2年間の事

業計画案及び予算案について審議され、支部を廃止・休止とかの意見が出て、活発に討議されましたが本部も最大限の応援をするということでした。話がまとまり、現行案で承認され、無事閉会いたしました。

課題は新入会員を増やすことですが、既存会員も震災以降住所の分からなくなった方が沢山おり、その方たちの住所が掴めていない現状で、会員数が減少しているとのことでした。

懇親会では千葉公元(きよま)支部長はじめ鈴木元前支部長、三浦政一(まさかず)支部長、久下賢二(けんじ)事務局長、五十嵐由美(ゆみ)監事、山浦玲子(れいこ)理事ら支部役員と福島支部所属の佐藤雄一郎(ゆういちろう)本部顧問も見えられ、一緒にお酒を酌み交わしながら校友会や母校への思いを語り合い、短い時間でしたが有意義に過ごすことができました。

支部の皆さまの温かいお心遣いに接し感謝しました。大変ありがとうございました。  
これからも支部活動よろしくお願ひします。

(昭和47年 企業経営学科二部)

## 〔文芸〕

### 春の風

関 實

春の風全身に浴びる子が走る  
春の色見つけて歩く花野かな  
大仏の春の日浴びてうたたねす  
打ち水に土の香りの舞ひ上がる  
染めたくて白髪(はく)の髪を洗ひけり  
解禁の手狭の鮎(あや)の宿泊まり

盆踊り幼馴染も共に老ひ  
友の通夜幾多の虫の忍び鳴く  
障子貼る二人の孫の手を借りて  
長命と云われ続けて松飾り

(昭和36年 経済科二部)

### 幹の瘤

大原 芳村

紅梅や画布に重ねる空の色  
花空木柵田へ引きし水の音  
梅雨晴や道一杯に子供の絵  
ためらひつ妻の日傘に入りけり  
あと少しあともう少し草筆(くさひつ)る

花火師の間に一礼花火果つ

裏山のもう暮れてゐる大根引

古日記来し方己れ欺かず

スキー一氣に滑りて妻の待つ前に

成木(なりきぎ)責父(せちち)と打ちたる幹の瘤

(昭和50年 企業経営学科二部)

### 川柳

藤井 直

草千里虫(くさせんりむ)が渡るよ氣をつけて

福塩線(ふくしおせん)高屋川(たかやがわ)には白い鳥

法要(ほふ)に鶯(うぐいす)の和(な)す安樂寺(あんらくじ)

花(はな)一輪(いちりん)高田(たかた)早苗(はやな)の墓(はか)の傍(そば)

三日(さん)月(つき)を見(み)下(くだ)すのかやビルの空

安倍(あべ)の弓木(ゆき)心(こ)如何(いか)にと弓工(ゆきこう)謂(い)い

諸葛(しよこく)亮(りやう)田(でん)横(ちやう)引(ひ)いて権(けん)に説(せつ)く

高炉(たかろ)超(こ)え落日(たふし)見(み)ゆる播磨灘(はりまの灘)

土(つち)と鉄(てつ)葉(は)も苦(く)手の大河(たか)組

同窓(どうそう)会(かい)三(さん)組(ぐみ)に分(わ)れて法隆寺(ほつりゆうじ)

脇(わき)からも溶岩(ようがん)流(なが)る西(にし)之(の)島

巢鴨(すうが)の地卒塔婆(ぢそつたば)の数(かず)や田沼(たぬま)様

(昭和42年 経済科)

## 我が道 夏 婕梅

私は、人生という道は自分の思った通りに歩むべきものだと思っています。そして、周囲に流されず自身を貫くためには、それに相応する努力が不可欠です。

中国の大学では日本語専攻で、もっと日本語を上達させたい、もっと違う世界が見たいという気持ちが強くなり、周囲の反対も聞かず、自力で留学の手続を済まして、一人で日本にやってきました。

留学生活で、一番問題になったのは、やはり言葉の問題でした。日本に来てすぐ美容室に行ったとき、うまく髪形の希望を伝えられず、外を歩けないほど恥ずかしい髪形に仕上がってしまったって、絶対日本語をマスターするぞと決心しました。

アルバイトも日本語の勉強に役立てなければならぬと、留学生が良く探すコンビニや居酒屋ではなく、有料老人ホームで最初のアルバイトを始めました。介護食の調理、行事食のお手伝い等栄養士補助の仕事や、業者の対応等を任せられ、敬語の使い方、礼儀、日本の食文化、風習等、本当にいろいろなことを教



わりました。お

かげで、日本語は確実に上達し、日本語能力検定1級を取得できました。

それまでの私は、ただ日本語の上達しか考えていませんでしたが、東京富士大学に入学し、これからの人生目標を見つけることができました。

1年生の時、入門簿記の授業を受けて会計に関心を持ち、土井先生の会計ゼミに入って本格的に会計の勉強を始めました。専門用語や専門知識を理解するため、長期休暇中も休まず勉強会に参加し、日商簿記2級に合格できました。その資格を活かし、3年生からは経理アシスタントのアルバイトを始めました。正直に言うと、土井先生との個人授業はきつかったです。集中力が鍛えられました。私のために授業の方法を考慮し、分からない所を何回も説明してくださった土井先生には、本当に感謝しています。

今は、税理士試験に挑戦しています。税理士法人の内定をもらい、これからはこの道を歩んで行きたいと思っています。将来に対しては、不安でいっぱいですが、まだまだこの先には様々な困難が待ち構えているでしょうが、それも自分の道を進むための必要条件だと信じています。

人生という道の歩み方は自分の努力次第です。

(平成28年 経営学部経営学科)

## 向上心 滝澤光太

四年間を通して、私は多くの事を学びました。特に就職活動が一番の思い出と言えることです。向上心を持ち続け、努力を惜しまなければ結果は出るということを経験することができました。

入学時、私自身に何か誇れるものがなかったために東京富士大学で優秀な学生になりたい、何か学業で結果を残したいと思いました。四年間を通して、経営の専門的な知識だけでなく今後、社会に出て必要となる実践的な知識も習得することができました。

大学一年次、学業成績は努力した甲斐もあり、伸びてきましたが成績優秀者には選ばれられるほどの成績には至りませんでした。このままだと私はこれをやり遂げた！というような想いを得ることなく、大学を卒業することになるのではないかと、学業以外に同じくらい頑張ることはないだろうかと考えた時、これから社会人になる私にとって重要になるであろう就職活動を人一倍頑張ってみようと思えました。



学業と同時に就職活動も精一杯頑張れば、きっと私の能力

を活かせる仕事に就くことができるのではないかと、就職活動を頑張る結果を出せば自信がつくのではないかとという想いが芽生えてきたからです。

そこで2年、3年とインターンシップに積極的に参加し、3年次には公募のインターンシップに応募しました。しかしながら、履歴書や面接などで良い結果は出ませんでした。その際にキャリアアセンターの先生方や専門ゼミの先生、友人などに相談した結果、30社受けた中で5社に参加することができました。

本格的に就職活動が始まる前に貴重な経験を積んだ努力が報われ、私の望む企業から内定を得ることができました。

4月からは社会人になります。大学で過ごした時間や先生方から学んだことを活かして、卒業生であること誇りに持ち続け、私に成長の機会を与えていただいた大学やお世話になった先生方に恩返しができるような存在になりたいと思います。内定をいただいたことは喜びですが、私自身にとって通過点に過ぎません。これから勝負だと考えています。今後は社会人として信頼や期待される社員を目指し、今後も努力を惜しまず、精進していきます。

(平成28年 経営学部経営学科)

## 日本での経験を糧に

沙露云

私は6年前、中国の大連から両親のもとを離れて、長野県上田市にある長野大学（環境ツーリズム学部）に3年次編入しました。その後、もつと日本で学びたいと思い大学院進学を決めました。東京富士大学を選んだのは、その頃、長野大学に非常勤講師で来られていた藤森先生の授業を受講し、環境経営に興味を持ったからです。

2014年4月3日の入学式は雨が降っていました。新しい生活に対する期待と不安な気持ちでいっぱいでした。しかし、一緒に学ぶ大学院生の皆さんと初めて会い、少し気持ちが慰められました。みんな優しく、とても良い雰囲気だったからです。



入学前から大学院の授業は一体どのようなのか心配でした。始まってみると、ほとんどがディスカッション形式で、留学生としてはこの形式に慣れるのがとても大変でした。発表も質問もまだまだ苦手ですが、先生方のご指導で、入学当初よりは良くなったと思います。

大学院で最も大変なことはやはり修士論文を書くことでした。私は普段のレポートと同じように考えていましたが、分量も内容も全く違っていました。まず40,000字も書くことも大変なことでしたし、内容についても、調べた資料を自分で分析し、そこから自分の考えを展開していくのはとても苦労しました。

困っていた私を支えてくれたのは指導教授である藤森先生でした。特に修士論文の提出期限が近づいた頃、先生は冬休みも、年末年始も休まずチェックしてくれました。

このような毎日を繰り返して、ようやく修士論文を提出できました。先生には心より感謝申し上げます。と思います。

大学院の2年間を振り返ると、辛いことも多くあったが、多くの友だちと知り合い、互いに助け合い、一緒に問題を解決したりすることができたのは、人生の貴重な経験でした。これから私は中国に帰国して新しい生活を始めますが、日本での経験と東京富士大学で学んだことを糧に頑張ります。

最後に、今までに関わったすべての方に心から感謝します。  
(平成28年 大学院経営学研究科修士課程)

## 実になった大学院生活

櫻井雅輝

私が東京富士大学大学院経営学研究科を志望した動機は、本校が、多数の税理士を輩出していたことでもあります。本校で税務実務の知識を身につけ、また、何かひとつでも、専門的な研究を行い、自身の得意分野として実務で役に立たいと思っていたからです。

大学院生活は、高田馬場駅に近い立地の良さもあり、仕事の合間に通学することができ、多くの単位を修得しました。租税や会計分野はもちろんのこと、コーポレート・ファイナンス、コーポレート・ガバナンス、組織行動論、人的資源管理、コーチング、リスクマネジメント、マーケティング、ポジショニング、等々、実務ですぐにでも役に立つ知識を、多くの先生方に教わりました。



指導教授の湯谷成人教授が、税務行政の功績により、筆者在学中に瑞宝中綬章を受章されたこと、誇りに感じました。

石塚一彌教授には、丁寧な指導をしていただきました。二年度には、石塚教授の夏合宿に参加させていただき、学外でも、他の学生と親交を深めま

した。  
また、若狭茂雄会長をはじめ東京富士大学会計人会の税理士の先生、とくに岩下忠吾先生には、私の研究の機会を与えていただきました。  
矢吹寛教授には、実務家の立場から、グローバルな視点で、法学的観点からわかりやすく指導を受けました。  
皆様のお陰で、充実した大学院生活を送ることができました。今後は自身の研究課題をさらに高めていくことを目標としております。  
最後に、これまでご指導いただきました全ての方々に、深く感謝申し上げます。  
(平成28年 大学院経営学研究科修士課程)



石塚先生と大学院生



### ● 校友会 第66回定期総会 講演会報告

## 「落語一席」

講師 入船亭 扇蔵師匠  
事務局長 北爪 登

第66回定期総会は平成27年6月20日(土) 東京富士大学本館1階のメディアホールで開催されました。

この日は、総会に先立ち午後1時30分より講演会が開催されました。講演は真打で若手ホープの入船亭扇蔵師匠の落語でした。

当日は、梅雨の季節にしては爽やかな日和の中で、古典落語二席を約1時間半に亘り好演されました。

最初の一席は「籠屋」と二席目は「子別れ」でした。

籠屋は両国の花火大会で有名ですが、その謂れは恥かしながら私自身師匠の落語を聴いて初めて分かった次第です。籠屋と侍との闘いのお話で、番頭と思われる男が殿様の行列と両国橋の中途(両国橋の長さは96間ある)で鉢合わせする形になってしまい、無礼打ちに3人の侍が次々に斬りかかるが、偶然が重なり次々に倒され、最後に殿様が成敗することになったが、更に偶然が重なり殿様の首までもが空高く跳ね上げられて「たがやー」となる落ちで、大変面白く好評でした。

また、二席目の「子別れ」は母子と別れた亭主の真に人情味溢れるお話で、子は「鏡」と言われるものを熱演されて最後まで私共を引きつけて下さいました。参加された皆様が良かったと賛辞を送って下さいました。

扇蔵師匠は埼玉県加須市のご出身で、当大学では2回目のご縁となりました。師匠は入門されて15年と言われましたが、ほぼ次の様な修行の道を進られたことでした。

- ・前座 師匠の身の廻りの世話をする。修行年数4〜5年。現在約30人
- ・二つ目 落語一筋で修行年数10年。現在約70人
- ・真打 弟子をとれる。本当のスタートが始まる。降格なし。定年もなし。現在約200人

落語協会としては約300人「とり」とすると言うことは、一つは、ろうそくを両側に2本立てて、ろうそくの芯を切ることができる。↓真打(仏教から来ているようです)もう一つは、木戸銭の半分は席亭

がとり、残りの半分はとりの人がとって出演者に分ける。↓とり  
また、声かけではその落語家が住んでいる町名で声かけするのが粋といわれるとのこと。名人は良い所に住んでいた。例えば「待ってました黒門町!」とでもいうように。  
更に声かけでは、夏の風物詩の

### ● 校友会 研究会報告

## 東京富士祭研究会報告

青野 貴礼 たかゆき

平成27年11月1日13時、東京富士大学本館4階141教室に於いて、校友会研究会が行われました。

研究会のテーマは、「マイナンパー制度(社会保障・税番号制度)の導入と国民の利害の変化」(若狭茂雄氏、八城一夫氏、高橋節男氏)と「国家の目的についてのアダム・スミスの考え方」(藤井直氏)でした。

第一部の「マイナンパー」についての研究会は、現役の税理士として実社会で活躍中の三人の校友が、デイスカッション形式でそれぞれのマイナンパーに対する姿勢等を話してくださいました。

若狭氏は当時日本税理士会連合会の役員をしており、また税理士会は組織としてマイナンパーを推進する立場にあった関係上、ご自身の考

代表的な存在である花火の褒め言葉として、打ち上がったから水の上へ煤が落ちるまで声を出し続けることが良いとのことでした。

色々と勉強させていただいて、また次の機会を楽しみにしたいと思います。

(昭和43年 経済科二部)

えに関わらずマイナンパー推進の立場でお話いただきました。

八城氏は、税理士事務所というマイナンパー管理事業者としての管理ツールを十全に用意なさり、顧客の求めに対応できるよう、法の指示する管理体制を整えていらっしゃるということでした。

高橋氏は、マイナンパーに対応する準備そのものを行っていないとおっしゃり、その根拠として所謂「マイナンパー法」の第一条の条文を挙げておりました。

「マイナンパー法」とは、正しくは「行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律(平成二十五年五月三十一日法律第二十七号)」と言います。その第一条(目的)には、「この法

律は、行政機関、地方公共団体その他の行政事務を処理する者が、(中略)効率的な情報の管理及び利用(中略)を行うことができるようにするとともに、これにより、行政運営の効率化及び行政分野におけるより公正な給付と負担の確保を図り、(中略)国民が、(中略)利便性の向上を得られるようにするために必要な事項を定める(中略)ことを目的とする。」とされています。即ちこの法律は行政機関並びにその委託を受けた健康保険組合等に対する法律であつて、民間に対する法律ではない、という問題提起はとても斬新なものでした。

この法律並びにマイナンバーという制度が実際にどのように運用されるかは、はじめてみないとわからない部分が多々あります。そうすると企業経営者や税理士事務所と言ったマイナンバー管理事業者も、

マイナンバーを付与される国民一人ひとりも、薄弱な根拠で語られる報道に一喜一憂するのではなく、正確な情報に基づき正しくこの制度を運用する必要があると感じました。

第二部の「アダム・スミス」についての研究ですが、一昔前までこれは古典経済学といった捉えられ方をしておりました。しかし最近再び脚光を浴びていることが、学術論文に引用される頻度からも読み取ることが出来ます。所謂近代経済学の結果が先行きの見えない昨今の情勢であるのなら、新しい道を模索する為に再び古典に立ち返る研究者が増えたことを意味します。

古い学説を古典と切り捨てるのではなく、一旦そこに立ち返ることこそ最新の学説を切り開くきっかけになるのではと強く感じました。

(平成18年 経営学部夜間主  
平成22年 大学院経営学研究科修士課程)



生の勧誘に努めて来ました。オリエンテーションでは、子供の頃に経験のある女子学生と未経験ながらも興味を持った女子学生二名の希望者がいたのですが、結果的には入部に至らず残念に思っている次第です。

今年度の活動状況について、日を追ってご報告いたします。

- ①五月二日～三日の一泊二日、春の合宿を秩父にて行いました。
- ②六月二十日、校友会総会出席後、雄峯会の総会を実施、現状の報告を行いました。
- ③六月二十一日、少林寺拳法関東OB連合会・定期総会に出席しました。
- ④六月二十七日～二十八日の一泊二日、伊東温泉(ホテル伊東ガーデン)にて、OB春の旅行会を開催しました。今回の宿は我々会員の親戚の方が経営しているホテルだった事もあり、二日間に渡り運転手付の送迎バスで伊豆を案内して頂きました。伊豆高原の大室山や伊豆周辺にある江戸時代後期に造られた世界文化遺産登録直前の韭山反射炉を見学したり、充

実した二日間を過ごすことが出来、宿の女将さんを始めスタッフ皆様にも、大変感謝の二日間となりました。

- ⑤十月二日～四日、秋の合宿を秩父にて行いました。久し振りに池袋を夕方出発、翌三日は朝から夕方まで丸一日練習を行い、四日の午前は皆でゆつくり楽しい時間を過ごし、午後解散しました。
- ⑥十一月一日、東京富士祭にて少林寺拳法雄峯会による演武会を開催、団体・組演武を披露しました。
- ⑦十一月六日～七日の一泊二日、OB秋の旅行会を群馬県の磯部温泉(舌切雀のお宿ホテル磯部カーデン)にて開催しました。一日目は紗義山で多くの文化財を有する紗義神社を参拝、翌日は碓氷第三橋梁(通称・めがね橋)の煉



少林寺拳法演武会 (東京富士祭にて)

## ●支会報告

# 少林寺拳法部雄峯会 会長 本間 羚次

二〇一五年(平成二十七年)の活動状況についてご報告させて頂き

ます。今年度は昨年に引き続き、現役学生一名と雄峯会々員七名、十名で、

毎週木曜日十六時三十分～十九時まで、学校当局のご厚意により本館地下武道場にて練習させて頂いております。

本年も部の復活を夢見て、現役学

瓦アーチ橋。二〇一四年六月に世界文化遺産に指定された富岡製糸場を見学し、勉強してきました。  
 ⑧十一月二十一日、少林寺拳法関東OB連合会の「第二十一回 O・B・現役懇親会」に出席しました。  
 ⑨十二月十二日、例年通り、新橋「新橋亭」にて忘年会を開催しました。以上、活動状況をご報告させて頂

## ●支会報告

### 雄峯マネジメント研究会

#### 平成27年度 活動報告

事務局長 森川 昇

我々の会は、年4回、3カ月毎に例会を開いています。事業年度は、6月1日から翌年5月31日までの1年間であります。

まず、6月に総会があり、9月、12月、2月の第1金曜日に例会を開いて、会則第2条にあるマネジメントの研究を中心に、会員の交流で親睦と情報交換を図っています。

今年の活動報告ですが、6月5日(金)に銀座にある南海東京ビルディング会議室で定時総会を開催し、第1部が総会、第2部が懇親会と2部構成でおこないました。

第1部の定時総会は、①平成26年度事業報告承認の件 ②平成26年度収支決算報告承認の件 ③平

きました。

本年度も、毎週木曜日 本館地下武道場にて、雄峯会と現役の練習をしておりますので、お時間のある時には是非道場に顔を出していただければ幸いです。

お待ちしております。

(昭和41年 経済科二部)

成27年度事業計画案承認の件 ④役員改選の件が審議され、いずれも原案どおり承認可決されました。役員改選では新会長に谷康昌会員が選任されました。

第2部は場所を移して「テング酒場銀座歌舞伎座前店」で懇親会をおこないました。

平成27年9月4日(金)の例会では、松原会員による「上場前と上場後の姿」と題しましてご講演をいただきました。松原会員は創業社長で33年前に設立したIT会社を2年前にジャスダックに上場を果たしています。創業社長(現在は会長)の貴重なお話が聴けて大変良かったです。出席会員からも質問がでて大い

に盛り上がりました。

平成27年12月4日(金)の例会は、恒例の忘年会を東銀座のテング酒場でおこないました。

平成28年2月5日(金)の例会は、近況報告会と題して、出席会員の今年の抱負・目標などをひとり5分程度お話ししていただきました。その後新年会をおこないました。引き続き、会員を募集しています。

## ●支会報告

### 会計人会の活動報告

会長 若狭茂雄



平成22年に本大学に、東京税理士会から学生への租税教育の一貫として、寄付講座が開設されました。本学卒業の税理士OB・OGの先生方による3年間の講座終了後の租税教育継続の約束を果たすため、それまで税務会計研究所が開催していた判例研究会を会計人会が継承しております。

#### 平成27年度活動報告

一、第6回東京富士大学会計人会 定期総会

マネジメントに関心、興味のある方は左記にご連絡ください。

事務局 森川 昇  
 〒328-0011  
 栃木県栃木市  
 大宮町2284-68  
 TEL&FAX  
 0282-2715480  
 (昭和47年 企業経営学科二部)

平成27年11月18日(水)

本館1階第2会議室

会員数 16名

① 活動報告、会計報告

② 全国大学会計人会サミット 開催の件

③ 役員改選の件

二、判例等研究会

本館1階第2会議室にて  
 午後6時30分より8時まで  
 (毎回同じです)

平成27年4月22日(水)

講師 石塚一弥教授

会計人会8名 大学院生4名

平成27年5月27日(水)

講師 木下大学院生

会計人会7名 大学院生5名

- 教授1名
- 平成27年6月24日(水)
  - 講師 若狭茂雄会員
  - テーマ「税理士としてマイナンバーをどう管理すべきか、顧問先にどう指導するか」
- 会計人会8名 大学院生4名 教授1名
- 平成27年7月22日(水)
  - 講師 高橋節男会員
  - テーマ「日本IBM及びファイアの損金否認の件」
- 会計人会5名 大学院生4名 教授1名
- 平成27年9月30日(水)
  - 講師 米田敏子会員
  - テーマ「広大地評価の是非否認」
- 会計人会9名 大学院生3名 教授1名
- 平成27年10月21日(水)
  - 講師 塚本登紀子会員
  - テーマ「換価分割」
- 会計人会7名 大学院生4名
- 平成27年11月18日(水)
  - 講師 坂下大学院生
  - テーマ「税理士事務所における管理者責任と職員の責任について」
- 会計人会8名 大学院生6名
- 平成27年12月16日(水)
  - 講師 石塚一弥教授

テーマ「繰延税金資産のスケ

ジュリングに関する事

例分析」

会計人会10名 大学院生4名

平成27年1月20日(水)

講師 八城一夫会員

テーマ「未經過固定資産税等相

当額の取り扱い、東京

高等裁判所判決」

会計人会6名 大学院生2名

三、税理士合格者祝賀会

平成27年2月26日(金)

石庫門 高田馬場店にて

午後6時より8時まで

税理士登録者

三上靖子会員

鳥居 薫会員

科目合格者

野沢 元さん(大学院生)

南雲明夏さん(大学院生)



税理士合格者祝賀会 平成27年2月26日

## 東京富士大学校友会 平成28年総会のお知らせ

- 日時 平成28年6月18日(土)
- 総会 午後1時00分～4時30分  
(講演会も予定されています)
- 会場 東京富士大学 本館1F メディアホール
- 懇親会 午後5時30分～7時30分  
(懇親会からでも参加できます)
- 会場 新宿プリンスホテル 地下2階 アリタリア  
今春卒業された方は会費は無料です

## 訃 報

東京富士大学校友会 副会長 元顧問、駒崎勉 会員は平成 27 年 2 月 28 日に逝去されました。享年 83 でした。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

### 略 歴

- 昭和28年 富士短期大学経済科卒業
- 昭和32年 日本大学大学院文学研究科心理学専攻修士課程修了
- 昭和32年 富士短期大学専任講師
- 昭和51年 城西大学教授
- 昭和59年 日本大学兼任講師
- 平成 7 年 城西大学退職

### 学会活動

- 昭和53年 日本応用心理学会 運営委員・理事
- 平成 5 年 日本応用心理学会 常任運営委員・常任理事
- 平成 6 年 日本応用心理学会 第61回大会会長

### 主要業績

- 昭和42年 『人間生活の心理学』 富士短期大学出版部
- 昭和52年 『パーソナリティの心理学』 八千代出版
- 昭和60年 『新訂パーソナリティの心理学』 八千代出版
- 平成 4 年 『人間研究の心理学—パーソナリティの問題を中心に—』 八千代出版

東京富士大学校友会 顧問 元副会長、勝浦吉雄 会員は平成 27 年 5 月 7 日に逝去されました。享年 91 でした。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

### 略 歴

- 昭和33年 富士短期大学経済科卒業
- 昭和38年 上智大学大学院文学研究科英文学専攻修士課程修了  
戸板女子短期大学教員  
立正大学教授を経て
- 平成 8 年 立正大学名誉教授

学 会 日本英学史学会評議員、現代英米文化学会会長、アメリカ文学会、日本英語教育史学会創設会員

### 主要業績

- 昭和54年 『日本におけるマーク・トウェイン：概説と文献目録』 勝浦吉雄著—桐原書店
- 昭和59年 『マーク・トウェイン自伝』 マーク・トウェイン著：勝浦吉雄訳—筑摩書房
- 昭和63年 『日本におけるマーク・トウェイン』 勝浦吉雄著：統一桐原書店
- 平成元年 『マーク・トウェイン自伝』 勝浦吉雄訳：上、下—筑摩書房（ちくま文庫）
- 平成 2 年 『世界を見る—筑摩書房：1990—（ちくま哲学の森）』 鶴見俊輔（ほか）編
- 平成 5 年 『ミシシッピ河上の生活』 マーク・トウェイン著：勝浦吉雄訳—文化書房博文社
- 平成 5 年 『マーク・トウェイン短編全集』 マーク・トウェイン著：勝浦吉雄訳：上—文化書房博文社
- 平成 6 年 『マーク・トウェイン短編全集』 マーク・トウェイン著：勝浦吉雄訳：中—文化書房博文社
- 平成 6 年 『マーク・トウェイン短編全集』 マーク・トウェイン著：勝浦吉雄訳：下—文化書房博文社
- 平成 8 年 『ユーモアの秘密』 レナード・ファインバーグ著：勝浦吉雄、安達秀夫、田中寿美訳—文化書房博文社
- 平成 8 年 『<生糸商>原善三郎と富太郎（三溪）：その生涯と事績』 勝浦吉雄著—文化書房博文社
- 平成10年 『ハックルベリ・フィンの冒険：附翻訳小史』 マーク・トウェイン著：勝浦吉雄訳—文化書房博文社
- 平成16年 『イノセント・アブロード：聖地初巡礼の旅』 マーク・トウェイン著：勝浦吉雄、勝浦寿美訳：上、下—文化書房博文社
- 平成20年 『苦難を乗り越えて：西部放浪記』 マーク・トウェイン著：勝浦吉雄、勝浦寿美訳—文化書房博文社

平成27年度 学園行事

4月

入学式(4/3 二上講堂)
学内オリエンテーション(4/6 二上講堂)
学外フレッシマンオリエンテーション(4/10)
第29回八王子市卓球選手権大会

(4/12 エスフォルタアリーナ八王子)
女子シングルス

優勝 池上玲子(経営学部3年生)
2位 前瀧初音(経営学部2年生)
3位 林めぐみ(経営学部2年生)
4位 小鉢友理恵(経営学部4年生)
5位 浅利美佳(経営学部1年生)
7位 滑川明佳(経営学部1年生)
8位 後藤奈津美(経営学部3年生)

第47回東京大学ソフトボール連盟春季リーグ戦(1部)

(4/12~26 東京富士大学日高総合グラウンド)
東京富士大学 2・0 東京女子体育大学
東京富士大学 5・0 国士館大学
東京富士大学 5・6 日本女子体育大学
東京富士大学 3・4 日本体育大学
東京富士大学 3・4 早稲田大学
2勝3敗 3位

5月

平成27年度春季関東学生卓球リーグ戦(1部)

(5/13~17 所沢市民体育館)
東京富士大学 4・1 大正大学
東京富士大学 4・0 東洋大学
東京富士大学 4・0 日本大学
東京富士大学 4・3 日本体育大学
東京富士大学 4・3 専修大学
東京富士大学 4・2 中央大学
東京富士大学 3・4 早稲田大学
6勝1敗 準優勝
最優秀ペア賞 池上玲子(経営学部3年生)
後藤奈津美(経営学部3年生)組

平成27年度関東学生卓球新人選手権大会
(5/23~24 和光市総合体育館)
女子シングルス
ベスト16 浅利美佳(経営学部1年生)
女子ダブルス
ベスト16 浅利美佳(経営学部1年生)
ベスト16 滑川明佳(経営学部1年生)組

第67回全日本総合選手権大会東京都予選会

(ソフトボール)

(5/16~17 西多摩郡瑞穂町シラヌンスポーツ公園)
1回戦 東京富士大学 7・6 早稲田大学
準々決勝 東京富士大学 4・0 佐川グローバル
準決勝 東京富士大学 8・1 日本女子体育大学
決勝 東京富士大学 6・0 東京女子体育大学
優勝

創立記念日(5/17)

第50回体育祭

(5/28 東京富士大学日高総合グラウンド)

6月

高田奨学生授与式(6/10)

学生大会(6/16)

平成27年度関東学生卓球選手権大会

(6/26~28 所沢市民体育館)

女子シングルス

3位 小鉢友理恵(経営学部4年生)

ベスト16 池上玲子(経営学部3年生)

女子ダブルス

3位 小鉢友理恵

林めぐみ(経営学部2年生)組

3位 池上玲子

後藤奈津美(経営学部3年生)組

ベスト16 鷲塚桃子(経営学部3年生)

前瀧初音(経営学部2年生)組

第67回全日本総合女子ソフトボール選手権大会

関東地区予選会

(6/27~28 千葉県総合スポーツセンターソフトボール場)

代表決定戦

東京富士大学 5・2 レオネッササポソフトボールクラブ

第67回全日本総合女子ソフトボール選手権大会

に出場決定

7月

オリジリボン運動(第6回ボートあそびフェスティバル)

(7/4 東京富士大学 中庭)

第85回全日本大学総合卓球選手権大会(団体の部)

(7/16~19 愛媛県武道館)

決勝トーナメント

1回戦 東京富士大学 3・1 志學館大学

2回戦 東京富士大学 3・0 金城大学

準々決勝 東京富士大学 1・3 同志社大学

女子団体 6位

高校生ライブMUSIC DAYS 東京大会

(7/19 二上講堂)

春学期本試験(7/27~31)

8月

第30回東日本大学ソフトボール選手権大会

(8/8~10 長野県伊那市)

2回戦 東京富士大学 9・1 東北福祉大学

準々決勝 東京富士大学 2・1 東京国際大学

準決勝 東京富士大学 2・1 早稲田大学

決勝 東京富士大学 4・0 山梨学院大学

優勝

第4回「日本リーグ」日学連対抗卓球ドリームマッチ

(8/29~30 名古屋市天白スポーツセンター)

出場 小鉢友理恵(経営学部4年生)

9月

第50回全日本大学ソフトボール選手権大会

(8/29~9/1 三重県伊勢市)

1回戦 東京富士大学 3・0 大阪大谷大学

2回戦 東京富士大学 5・2 武庫川女子大学

準々決勝 東京富士大学 5・0 東京女子体育大学

準決勝 東京富士大学 5・0 東京女子体育大学

準決勝と決勝は雨天のため実施できず4校入賞

平成27年度秋季関東学生卓球リーグ戦(1部)

(9/7~15 ところきアリーナ代々木第1体育館)

東京富士大学 4・1 日本大学

東京富士大学 4・2 淑徳大学

東京富士大学 4・1 大正大学

東京富士大学 4・1 日本体育大学

東京富士大学 2・4 早稲田大学

東京富士大学 4・3 中央大学

東京富士大学 4・1 専修大学

6勝1敗 準優勝

最優秀ペア賞 池上玲子(経営学部3年生)

後藤奈津美(経営学部3年生)組

第67回全日本総合女子ソフトボール選手権大会

(9/19~21 岩手県花巻市)

1回戦 東京富士大学 6・0 東海学園大学

2回戦 東京富士大学 3・6 トヨタ自動車

第70回国民体育大会 卓球競技

(9/26~30 和歌山県)

小鉢友理恵(経営学部4年生・福岡県代表)

鷲塚桃子(経営学部3年生・鹿児島県代表)

後藤奈津美(経営学部3年生・秋田県代表)

古川聖奈(経営学部3年生・長野県代表)

林めぐみ(経営学部2年生・千葉県代表)

前瀧初音(経営学部2年生・埼玉県代表)

滑川明佳(経営学部1年生・福島県代表)

第24回八王子オープン卓球選手権大会

(10/4 エスフォルタアリーナ八王子)

一般女子 優勝 前瀧初音(経営学部2年生)

2位 林めぐみ(経営学部2年生)

3位 池上玲子(経営学部3年生)

5位 鷲塚桃子(経営学部3年生)

8位 後藤奈津美(経営学部3年生)

第9回関東学生卓球チームカップ(Aブロック)

(10/7~8 駒沢体育館)

女子団体 ベスト8 東京富士大学Bチーム

第47回東京大学ソフトボール連盟秋季リーグ戦(1部)

(9/26~10/11 東京富士大学日高総合グラウンド)

早稲田大学所沢グラウンド)

東京富士大学 1・0 日本女子体育大学

東京富士大学 8・1 国士館大学

東京富士大学 2・3 早稲田大学

東京富士大学 6・2 東京女子体育大学

東京富士大学 0・2 日本体育大学

3勝2敗 3位

防災訓練(10/14 中庭キャンパス)

第82回全日本大学総合卓球選手権大会(個人の部)

(10/22~25 京都市体育館)

女子シングルス

12位 前瀧初音(経営学部2年生)

女子ダブルス

7位 鷲塚桃子(経営学部3年生)

前瀧初音(経営学部2年生)組

11月

第50回東京富士祭(10/30~11/2)

1日 模擬店・展示・研究発表・プレイランド

軽音楽部ライブ

映画上映会

新日本書道書友会「関東展」

ライブステージ

2日 模擬店・展示・研究発表・プレイランド

軽音楽部ライブ

校友会公開講演会

外国人留学生による日本語スピーチ大会

新日本書道書友会「関東展」

少林寺拳法部雄拳会演武会

空手道部演武会

ライブステージ

モノマネお笑いライブ

高校生ライブMUSIC DAYS 2015 FINAL

(11/3 二上講堂)

第46回関東大学女子ソフトボール選手権大会

(11/14~17 茨城県石岡市)

2回戦 東京富士大学 15・0 学習院大学

準々決勝 東京富士大学 2・0 城西国際大学  
準決勝 東京富士大学 3・0 山梨学院大学  
決勝 東京富士大学 3・0 東京国際大学  
優勝

第7回藤原留杯全園大学実業団対抗フットボール選抜大会  
(11/21~22 愛知県豊田市)  
東京富士大学 0・1 トヨタ自動車  
東京富士大学 3・4 中央大学  
東京富士大学 7・3 東海理化  
東京富士大学 2・0 東海学園大学  
Aグループ 2勝2敗  
第12回全日本学生選抜卓球選手権大会  
(11/28~29名古屋市昭和スポーツセンター)  
女子シングルス

12月  
ゼミ発表大会(12/3)  
学生大会(12/18)  
1月  
平成27年度全日本卓球選手権大会  
(1/11~17 東京体育館)  
小鉢友理恵(経営学部4年生)  
女子シングルス出場 女子ダブルス出場  
混合ダブルス出場  
池上玲子(経営学部3年生)  
女子ダブルス出場  
鷲塚桃子(経営学部3年生)  
女子シングルス出場 女子ダブルス出場  
混合ダブルス出場  
後藤奈津美(経営学部3年生)  
女子シングルス出場 女子ダブルス出場  
古川聖奈(経営学部3年生)  
女子シングルス出場 女子ダブルス出場  
混合ダブルス出場  
林めぐみ(経営学部2年生)  
女子シングルス出場 女子ダブルス出場  
前瀬初音(経営学部2年生)  
女子シングルス出場 女子ダブルス出場  
混合ダブルス出場  
滑川明佳(経営学部1年生)  
女子シングルス出場 女子ダブルス出場  
浅利美佳(経営学部1年生)  
混合ダブルス出場

課外活動奨励賞授与式(1/25)  
秋学期本試験(1/26~2/1)

2月  
平成27年度神奈川県卓球選手権大会  
(2/13~14 横浜国際ブルースポーツフロア)  
女子団体3位 東京富士大学  
第41回浮舟杯卓球大会  
(2/13~14南相馬市)  
一般女子団体  
3位 東京富士大学  
一般女子シングルス  
優勝 前瀬初音(経営学部2年生)  
3位 林めぐみ(経営学部2年生)  
3位 滑川明佳(経営学部1年生)

3月  
学位記授与式(3/20 二上講堂)  
卒業記念パーティー(3/20 京王プラザホテル)  
平成27年度校友会事業計画

本年度実施する主な事業  
1 講演会開催  
日時 平成27年6月20日(土)  
13時30分~15時  
場所 東京富士大学本館1Fメディアホール  
講師 入船亨 扇蔵師匠  
演題 「落語一席」  
2 総会開催  
第66回定期総会開催  
日時 平成26年6月20日(土)  
15時10分~16時30分  
場所 東京富士大学本館1Fメディアホール  
議題  
I 平成26年度事業報告承認の件  
II 平成26年度収支決算承認の件  
会計監事 監査報告  
III 平成27年度事業計画(案)承認の件  
IV 平成27年度収支予算案承認の件  
V 役員改選の件  
3 懇親会  
日時 平成27年6月20日(土)  
17時30分~19時30分  
場所 新宿プリンスホテル「アリアリア」

平成27年度校友会行事録

会費 6000円  
4 研究会開催  
日時 平成27年11月1日(日)  
13時~15時30分  
場所 東京富士大学本館1411教室  
I 講師 校友・税理士 若狭茂雄氏  
同 高橋節男氏  
演題 「マイナンバー制度 社会保障・税番号制度の導入と国民の利害の変化」  
II 講師 本学名誉教授 藤井直氏  
演題 「国家の目的についてのアダム・スミスの考え方」

5 会報の作成と配布  
会報「雄峯」54号一〇〇部を作成し新会員及び会員並びに学校に配布  
6 会員名簿の作成  
全会員名簿の整理と変更等のメンテナンス  
7 入会記念品の配布  
新会員に記念品を配布  
8 支部・支会の助成及び育成  
9 学生行事への助成と交流  
10 その他

4月3日  
入学式(二上講堂)  
5月1日  
会計監査校友会室  
5月8日  
平成26年度決算監査  
5月8日  
常任理事会(校友会室)(18時)  
1 平成26年度校友会事業報告及び収支決算について(監査報告)  
2 平成27年度校友会事業計画(案)及び収支予算(案)について  
3 総会の講演会について  
4 「雄峯」発行について  
5 その他  
5月20日  
理事会・委員会(校友会室)(18時)  
1 平成26年度校友会事業報告及び収支決算

平成27年度校友会行事録

平成27年度校友会理事の選任について  
今年度は研究会を行うことが決定した  
7月23日  
委員会(校友会室)(17時30分)  
1 平成27年度校友会理事の選任について  
11月1日  
東京富士祭 校友会公開講演会  
(13時~15時30分)  
会場 東京富士大学本館1411教室  
演題 I 「マイナンバー制度 社会保障番号制度の導入と国民の利害の変化」  
講師 校友・税理士 若狭茂雄氏  
同 高橋節男氏  
演題 II 「国家の目的についてのアダム・スミスの考え方」  
講師 本学名誉教授 藤井直氏

6月20日  
第66回定期総会  
講演会(13時30分~15時)  
会場 東京富士大学本館1Fメディアホール  
講師 入船亨 扇蔵師匠  
演題 落語一席  
総会(15時10分~16時30分)  
会場 東京富士大学本館1Fメディアホール  
1 平成26年度事業報告承認の件  
2 平成26年度収支決算承認の件  
会計監事 監査報告  
3 平成27年度事業計画(案)承認の件  
4 平成27年度収支予算案承認の件  
5 役員改選の件  
懇親会(17時30分~19時30分)  
会場 新宿プリンスホテル「アリアリア」  
7月23日  
委員会(校友会室)(17時30分)  
1 平成27年度校友会理事の選任について  
11月1日  
東京富士祭 校友会公開講演会  
(13時~15時30分)  
会場 東京富士大学本館1411教室  
演題 I 「マイナンバー制度 社会保障番号制度の導入と国民の利害の変化」  
講師 校友・税理士 若狭茂雄氏  
同 高橋節男氏  
演題 II 「国家の目的についてのアダム・スミスの考え方」  
講師 本学名誉教授 藤井直氏

## 東京富士大学 校友会会則

### 第1章 総 則

第1条 (名称)  
本会は、東京富士大学校友会と称する。

第2条 (本部の所在地)  
本会は、本部を東京富士大学内に置く。

第3条 (目的)  
本会は、会員相互の資質の向上と親睦を図り、あわせて母校の発展に寄与することを目的とする。

第4条 (事業)  
本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行なう。

1. 各種研究会及び親睦会の開催
  2. 会報の作成及び配布
  3. 会員名簿の作成及び配布
  4. その他必要な事項
- 第5条 (会員)  
本会の会員は、次の者からなる。
1. 普通会員 東京富士大学及びその前身学校の各卒業生、並びにこれらにかつて在学し、入会を希望する者
  2. 特別会員 前項における現旧職員

### 第2章 役 員

第6条 (役員)

1. 一本会に、次の役員を置く。
    1. 会長 1名
    2. 副会長 5名以内
    3. 常任理事 20名以内
    4. 理事 50名以内
    5. 委員 各同期生より10名以内
    6. 会計監事 3名以内
    7. 事務局長 1名
  2. 前項の規定にかかわらず、各支部及び支会より委員若十名を置くことができる。
- 第7条 (役員を選出)  
役員は、次により選出する。
1. 会長は、普通会員の中から総会において選出する。
  2. 委員は、各同期生、各支部及び支会の会員の互選による。
  3. 理事・会計監事は、委員会において委員の中から互選する。但し、会計監事は理事を兼ねることができない。
  4. 副会長・常任理事及び事務局長は、理事会の議を経て理事の中から会長が委嘱する。

第8条 (会長・副会長)

1. 会長は、本会を代表し、会務を総理する。
  2. 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときはその職務を代理する。
- 第9条 (常任理事・理事)
1. 常任理事は、会長及び副会長に協力し、会務を分担する。
  2. 理事は、理事会を構成する。
- 第10条 (委員)
- 委員は、委員会を構成し、その会務を掌理する。
- 第11条 (会計監事)
- 会計監事は、会計事務を監査し、その結果を総会に報告する。
- 第12条 (事務局長)
- 事務局長は、事務を掌理する。
- 第13条 (役員任期)
1. 役員任期は、就任後第2回目の定期総会終了のときまでとする。但し、重任を妨げない。
  2. 役員が辞任又は任期満了した場合に、後任者が就任するまでは、前任者がその会務を行うものとする。

### 第3章 機 関

第14条 (委員会)

- 委員会は、次に掲げる事項を決定する。
1. 理事・会計監事の選任
  2. 会務運営に関する基本的事項
- 第15条 (理事会)
1. 理事会は、会長及び理事をもって組織する。
  2. 理事会は、次に掲げる事項を決定する。
    1. 総会及び委員会に提出すべき議案
    2. 会務の執行に関する事項
    3. 総会の決議事項であつても、特別に緊急を要するために止むを得ない事項。但し、第3項の決議事項は、次の総会で承認を得なければならぬ。
  3. 理事会は、会長が招集し、議長は出席者の中から互選する。議事は出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。
- 第16条 (総会)
- 定期総会は、毎年6月とし、臨時総会を必要とする場合は、理事会の議を経て開催することができる。
- 第17条 (招集)
- 総会の招集は、会長がこれを行い、会日の1週間前までに、日時、場所及び議案を記載した書面により、会員にその通知をしなければならぬ。

第18条 (議長)

- 総会の議長は、出席者の中から互選する。
- 第19条 (議決の要件)
- 総会の議決は、総会出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは議長が決するところによる。
- 第20条 (委任による議決権の行使)
1. 会員が総会に出席することができない者は、あらかじめ議案について賛否の意見を明らかにした書面をもって、出席する会員に委任して、その議決権を行使することができる。
  2. 前項の規定により議決権を行使した議決の数に、前条の規定による出席者に算入する。
- 第21条 (総会で決定すべき事項)
1. 事業報告及び事業計画の承認
  2. 予算及び決算の承認
  3. 会長の選出
  4. 本会の重要な財産の取得及び処分に関する事項
  5. 本会会則の変更
  6. その他会務に関する重要事項
- 第22条 (議事の制限)
- 総会においては、第21条の議案以外の事項を決定することができない。
- 第23条 (事務局)
1. 本会に事務局を置く。
  2. 事務局は、細則で定めるところにより事務を処理する。
  3. 会長は、事務局員若十名を委嘱することができる。
- 第24条 (名誉会長)
1. 本会に名誉会長を置くことができる。
  2. 名誉会長は、会長が総会の承認を得て委嘱する。
  3. 名誉会長は、理事会及び委員会に出席して意見を述べることができる。
  4. 名誉会長の委嘱期間は、第13条の規定を準用する。
- 第25条 (顧問・相談役及び参事)
1. 本会に顧問・相談役及び参事を置くことができる。
  2. 顧問・相談役及び参事は、本会に特別の功績があつた者のうちから、理事会の決議を経て会長が委嘱する。
  3. 顧問・相談役及び参事は、理事会に出席して意見を述べることができる。
  4. 顧問・相談役及び参事の委嘱期間は、第13条の規定を準用する。

### 第4章 会 計

第26条 (入会金)

- 普通会員は、入会金五〇〇〇円を納入する。
- 第27条 (会費)
- 普通会員は、終身会費として五〇〇〇円を会費として納入する。
- 第28条 (臨時会費)
- 臨時に必要とする会費は、その都度、理事会の議を経て徴収することができる。
- 第29条 (会費等の不返還)
- 入会金・会費及び寄付金は、理由の如何に拘らず還付しない。
- 第30条 (経費)
- 本会の経費は、入会金・会費・寄付金、及びその他の収入をもつてこれに充てる。
- 第31条 (財産の管理)
- 本会の財産は、会長が管理する。
- 第32条 (予算の執行)
- 本会の予算の執行については、別に財務処理規定を定める。
- 第33条 (会計年度)
- 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

### 第5章 雑 則

第34条 (届出の義務)

1. 会員は、その住所・氏名・就職場所等の変更があつた場合は、速やかに本部事務局まで届け出なければならない。
  2. 前項の届出を怠つた場合、及び第27条の会費を納入しない場合は、本会よりの通知文書等の送達を省略しても、本会の責任とならない。
- 第35条 (細則)
- 本会の規定により手続上の細則については、理事会の議を経て別に定めることができる。
- 付則 この会則は、昭和60年6月30日より実施する。
1. 一部改正、平成11年6月19日施行。
  1. 一部改正、平成15年6月28日施行。
  1. 一部改正、平成18年6月24日施行。
  1. 一部改正、平成21年6月27日施行。

## 会務分掌等に関する規定

35条の規定により、次のとおり定める。

第1条 常任理事は、会長、副会長及び常任理事をもって構成し、理事会に提出すべき議案の決定並びに会務執行その他必要な事項について協議する。

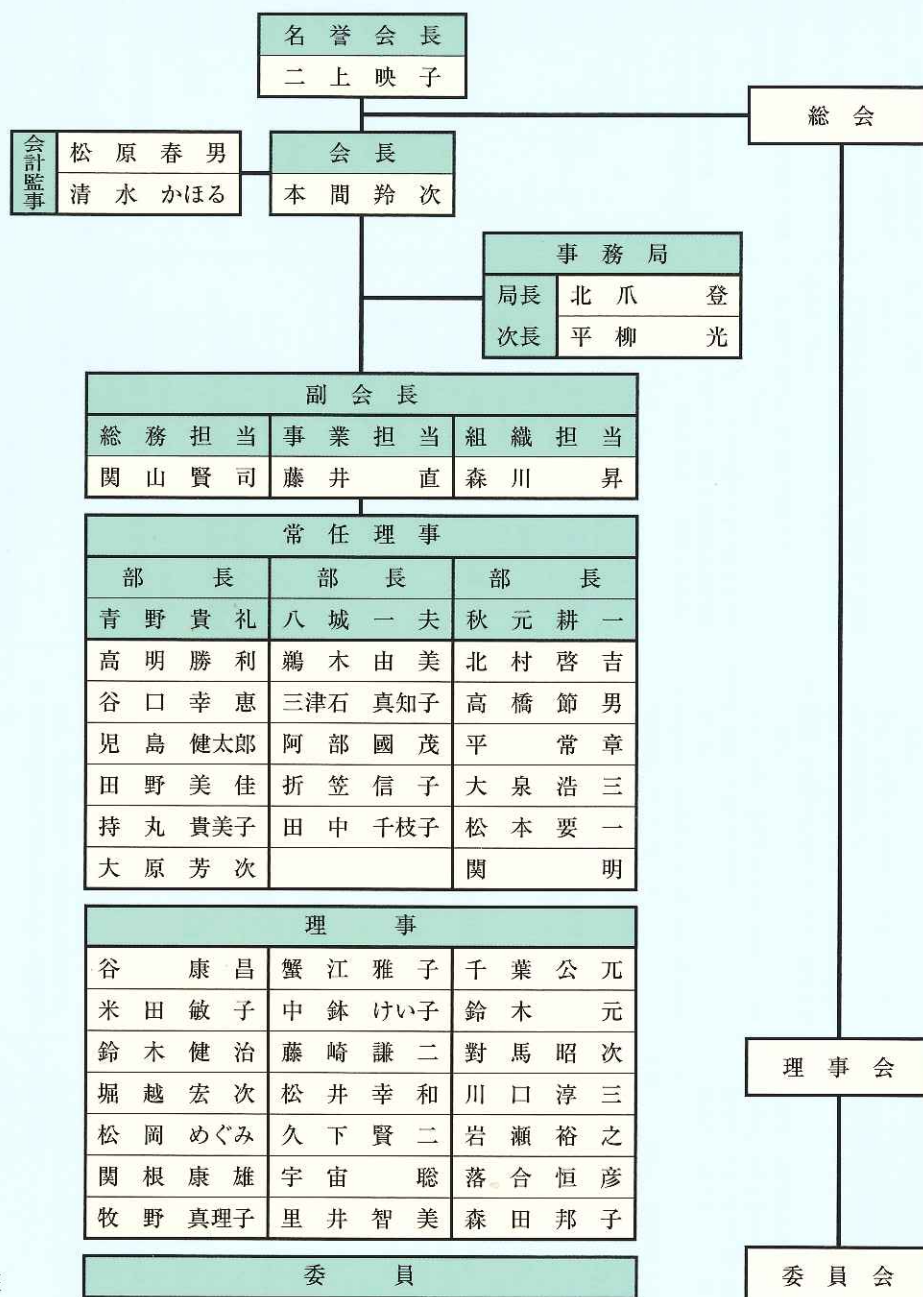
2. 会則第15条第2項第3号の規定は、前項の場合に適用する。
- 第2条 本会の事務局に次の部を置き、常任理事(以下担当理事という)が分掌する。但し、副会長若しくは、常任理事の議を経て会長が委嘱する理事が分掌することを妨げない。
- 一、総務部
  - 二、事業部
  - 三、組織部
- 第3条 総務部においては、委員会、理事会及び総会に関する事項並びに財務処理に関する事項のほか、他の部に属さない一切の事務を処理する。
- 但し、前条に規定する事業部及び組織部において会務を行うことができない事由がある場合には、総務部において会務を行うことができる。
- 第4条 事業部においては、会則第4条の規定に基づき、各種研究会、法律、会計、簿記、経営等の各部門、及び親睦会の開催、会報の作成及び配布、その他必要な事項を行い、本会の目的を達成する。
- 第5条 組織部においては、会員名簿の作成及び配布、会員の増大に対処して、相互の有機的な関係を図るとともに支部及び支会を積極的に助成し、本会の基礎を強化する。
- 第6条 本会の事務局に事務局次長を置き、これに補佐させることができる。
2. 各部に部長を置き、部長はその会務を掌理する。
  3. 事務局次長、各部の部長及び担当理事は常任理事会で協議して定める。
- 第7条 会則第15条第2項第3号の規定は前項の場合に適用する。
- 第8条 本会の会議を開催した場合は、議事録を作成し、議長及び議長の指名する議事録署名人2名が署名しなければならない。
- 第9条 前項の議事録は、総務部において保存しなければならない。
- 第10条 本会は次の基準により支部及び支会を設置することができる。
1. 各都道府県に支部を組織するとき。
  2. 各域等の会員約30名以上で支会を組織するとき。
- 付則 この規定は昭和57年9月5日から実施する。
1. 一部改正、平成18年6月24日施行。



## 平成27年度校友会事務組織・分担表

顧問	
樋口	光善
佐伯	一郎
倉橋	清文
鈴木	允子
石井	末之進
関	實
井上	和子
佐藤	雄一郎
若狭	茂雄

相談役	
三井	英一
江種	康人



平成28年3月20日現在

### 「雄峯第54号」編集委員会

委員長		藤井 直	
委員	青野 貴礼	秋元 耕一	
	鷓木 由美	江種 康人	
	北爪 登	田中千枝子	
	平柳 光	三津石真知子	
	森川 昇	八城 一夫	
(五十音順)			

## 編集後記

●『雄峯』の表紙を象徴する題字は、二上貞夫先生の書です。独創的で流麗な揮毫に、編集部一同感激したことを覚えていきます。本誌はこの唯一の題字とともに生き続けていきます▼あるアスリートが、敬愛する先生に捧げた言葉があります。

——先生のご指導のおかげで、いま私はここにいます。どうか見守っていて下さい——と。先生との絆は続いているのです▼今年はおリンピックイヤー、先生の教え子たちが輝く日を信じています▼過酷な自然と不確かな日々の中で、いま飛び立つ卒業生がいます。彼らの言葉は前向きで力に溢れています。先生の応援歌を聞きたいと思っています▼校友の皆さまから、先生への敬意と哀悼の言葉の数々、きつと先生に届いています。

鵜木 由美

●「ゆく川の流れば絶えずして、しかも、もとの水にあらず」（鴨長明『万丈記』）。昨日と今日はよく似ているけど、10年前とは全然違う。そして10年後もまた今とは違った世の中になっているでしょう。だからこそ、出会ひも別れも必然です▼私は二上貞夫先生と、私的に会話をしたことはありませんでした。ただ式典等でご挨拶をさせていただいた程度。けれど今号で校友の皆様からの追悼文を読み、在りし日の二上先生の姿が思い浮かびました▼10年後、20年後。私もいつか、先達のことを回顧し筆を執る機会があるかもしれない。けれどその時『雄峯』を読む後輩諸氏の多くは、その方のことを存じ

ないでしょう。そんな後輩諸氏に、その時その方の活躍した東京富士大学を思い浮かべてもらえるような、今号『文芸』欄で大原芳村師が詠んだ通りの「古日記」に『雄峯』がなれば、と思います。

青野 貴礼

●編集会議に携わりまして3年目です。卒業生の寄稿を見て頑張っている様子がわかりました。卒業してからも校友会に出席し、社会のいろいろな事を勉強してください。宜しくお願いします▼校友会も佐治会長、武井会長、井上会長、松本会長、若狭会長、本間会長、6人の会長さんに関わってまいりました。これから校友会の発展のため『雄峯』編集に携わってまいります。原稿をくださいました方々ありがとうございます。編集委員の皆様お疲れ様でした。

秋元 耕一

●今年も多くの学生さんが社会人となりました。卒業生に贈る言葉として、校友会の本間会長が述べておられます。人生を良くも悪くするのも自己の責任です。己自身で深く心に刻んで欲しいと思います。▼私からは些細なことですが、要諦になるもの一つと考へ贈りたいと思います。「信用」と「信頼」は同義語なのか、そこに違いがあるのか、現役時代に営業部員十数名が集まった席で同じ質問をしたところ全員が同じ意味と答えた。管理職も…お客様からはただ単に信用ではなく信頼を得ることがいかに重要であるか、それが競合他社との勝負に勝つ秘訣であると

説明したことがある。長い職業人生を生きていくには信用を得ることは極めて大事ですが、大成を得るにはそれだけでは不十分です。自己を厳しく律して信用を積み重ねていくことで、字の如く信用だけに留まることなく、他から頼られる人格になるということです。会社としての信用は先輩たちが築き上げたもので、一度「信用」「信頼」を失うことになれば、二度と回復させることは容易ではありません。

北爪 登

●以前、編集委員会での会話の中で富士短大の前身である大世学院が西武池袋線の中井駅の近くにあったと聞いたことがあり、ふらりと散歩で回ったことがあった。しかし当時の知識もなく当然わからずもなかった▼その時歩き回っているのと名称ではなく数で呼ばれている坂のあるのを見つけ、興味が湧きその後何度か散歩で歩くようになった。通称中井の坂と呼ばれ一の坂から八の坂までであるようだ。まだ全部の坂の上には行ったことはないが六の坂の上には目白大学があり、四の坂の途中には作家・林芙美子が晩年を過ごしたという屋敷 現在には林芙美子記念館がある。編集委員会が終了したなら大世学院の地を訪ね、残りの坂を踏破しようと思う。

平柳 光

●新しい年が明けたと思ったら、はや2か月が過ぎ、元旦に立てた一年の計はどうなっているのか知るか知らずか、季節は冬から一雨ごとに暖かくなっ

春に近づいています▼今回もすばらしい原稿に出会い、多くのことを学ばせていただきました▼原稿をくださった校友の皆様ありがとうございます。編集委員の皆様お疲れ様でした。

森川 昇

●梅の香りが漂い、早咲きの桜も咲きだすころ編集委員会が開かれます。そんな季節を楽しむ間もなく原稿を読みふける委員の皆様、お疲れ様でした。また、お忙しい中、原稿をお寄せ下さった皆様ありがとうございました▼様々な校友の方から原稿をいただき、学園の校風という少しセピア色になった歴史に触れる時、季節を感じるようになりました▼今年はおリンピックが開催されます。サッカーのなでしこたちは出場を逃し残念でしたが、組織は世代交代が大切なポイントだと再認識しました。大学も校友会も少しずつ世代交代していると、そんな気持ちで編集作業をしていたら夜が明けました▼大学のホームページ「卒業生の皆様へ」で本号が閲覧できますのでご覧ください。

八城 一夫

●お蔭様で『雄峯』第54号を発行することができました。読者の皆様が新しい発見をしたと思つてくださる記事のあること、そして共感と支援をいただける本号であることを切に祈ります▼その一方で、決して尋常とはいえないほどの重い負荷をお掛けした委員と家庭の方々には心からの慰労とお礼の言葉を申し上げます。

藤井 直

# 雄 峯



TOKYO FUJI UNIVERSITY  
東京富士大学校友会

## 雄 峯 第 54 号

---

平成 28 年 3 月 20 日 印 刷

平成 28 年 3 月 20 日 発 行

発行人 東京富士大学校友会  
本間 稔次

編集人 「雄峯」編集委員会

事務局 東京富士大学  
学生課内

〒 169-0075

東京都新宿区高田馬場 3-8-1

TEL. 03-3362-2252

印刷所 株式会社 暁印刷

---